

日本大学体育会体操部部誌

櫻樹

創刊号

「桜樹」が創刊されることになつたが、このことばの意味は、部員諸君が常に学生の中心として、リーダーシップを忘れず、豊かな学園生活と部生活との創造を願つて、秋葉安太郎体操部長（文学博士、文理学部長）が名付けられ、さらに、自ら筆をおとりになり題字をお書き下さつたものである。

櫻
樹

創
刊
号

日
本
大
学
体
育
会
体
操
部

1

2

3

4

5

目次

体操と私	秋葉安太郎	一
部誌創刊に際して	門脇春男	四
試合と私	遠藤幸雄	六
どろどろ、べつとりそしてそのものへ	門脇和子	九
日ソ対抗に参加して	早田卓次	一一
遠征	渋谷多喜	一三
有望株の日大体操部	高島健治	一五
これがエンドウ	エス・トカレーフ	一六
FIG報告		一八
運動傷害のいろいろ		一九
線路工夫	菊地君男	二三
ただ見れば何んの苦もなき水鳥	高田信興	二四
努力	田野哲	二六
根性でぶち当れ	上野剛	二七
卒業を前にして	建部盛蔵	二八
成巧は希望からでなく努力から	山中勝男	二九
私の体操の歩み	志賀正昌	三〇
できてもできなくても	小松武雄	三一
国際競技への政治介入について	金子洋平	三二

わが輩は掌である	平野昌宏	三五
現在のわが部	真島孝礼	三七
体操の面白さ	鶴見興人	三八
学業とスポーツ	坂本弘美	三九
希望	山岸正文	四〇
和	梅崎捷也	四五
準備	小松楯木	四六
体操の中に幸せが	下手真美子	四七
無題	佐藤優子	四八
明日に望みを	海谷美代子	四九
友への便り	吉川公子	五〇
羽田空港での見送り	宮川本子	五一
川流れて月流れず	小笠原光子	五二
新人からの脱皮	藤田一	五三
これからだ	砂野泰男	五四
雑感	江川征四郎	五五
体操部と寮生活	朝比奈征四郎	六〇
新人	内藤敏夫	六二
お耳拝借		六三
ケルベツク選手の馬尾伸膝跳に思う		四三
編集後記		七三

体操と私

体操部部长 秋葉 安太郎

― 未来像への曙光 ―

わが体操部の記録誌桜樹（おおじゆ）が創刊されるためにあたり、先づ、体操と私のつながりを、四十数年の昔に遡つて、記憶を辿りながら偲んでみたいと思う。

私が鉄棒以外の器械を使つて体操を初めたのが大正五、六年まだ二十歳を越したばかりの頃であつた。飛箱、平行棒、平均台、肋木位のもので、吊輪や鞍馬などは無かつた。今日のように、採点したり順位をつけたりというような事はなかつたが、方々で講習会が開かれ、自然と技を競うという風潮が強くなり、私もその波に乗つて、遠くで開かれる講習会にも出席して、新体操を身につけることに熱中したものであつた。その後上京して日本大学に入つてからは、体操というものから全く離れてしまつたが、関心だけは持ちつづけていたようである。

大東亜戦争が終つたあと、私が三島予科長となつた昭和二十二年頃、早稲田大学の体育科を卒業し、従軍して陸軍少尉の肩書を持つ服部欣一助教授を、三島予科の体育講師として招いてから、薄れかけていた体操熱が蘇えり、兵舎を修改造して、先づ図書館を、

次ぎに体育館を造つた。二階建木造兵舎を補修改造したのだが、この工事を担当した建築屋さんも、随分苦心したようであつた。しかし、どうやら体育館らしくできあがり最少限の器具器械も備えたが、終戦直後の事として、服部先生の苦心は大変なものであつた。

その後新学制が施行され、三島予科も世田谷予科も教養部となり、昭和二十七年一月私が両方の教養部長となつて、昭和二十七年世田谷の今の体育館ができ上り、昭和三十一年四月平野教授の紹介で、門脇君を体育助手として招いた。余談になるが、今の体育館は、今日ではまことに恥かしいような体育館だが、当時は東京一を誇つていたものであつた。門脇助手が来られてから間もなく体操部をつくつたが、初めは部員も十名足らずの淋しい状態であつたように思う。その後、昭和三十三年九月に曾我部、三十四年四月に遠藤、この両君を体育助手として招き、こゝに体操部の指導陣密を整えることができたわけである。

今から五年前、本学の教育機構改革によつて、世田谷三島両教養部が文理学部となり、理学部系の諸学科と共に、体育科を増設するに及んで、体操部員も漸次増加、ついで、本学体育会から公認され、今日の盛況を見るに到つたのであるが、この間、曾我部、遠藤両君がしばしば海外における国際競技に、日本代表選手として出場し、目ざましい成績をおさめた喜びは、今も私の胸に躍動している。両君の活躍は直ちに部員の刺激とな

り、国内競技会における部員の成績も漸次向上し、忽ち二部から一部に昇進、遂に、先年優勝をかち得るまでに成長し、更に、いつの日にか、部員の中から国際選手をと願っていたのであるが、さきに渋谷君、今回また早田、渋谷の両君が海外に派遣され、あまりにも早くその日の到来したことに、夢のような思いがしている。これも、部員諸君の精進と共に、門脇講師、曾我部助手―今は門脇夫人―、遠藤助手等の献身的指導のおかげと心から感謝している。

私がかねてから、体操は最もスマートな体育種目で、日本人の体格や感のよい気質に適しており、国際競技で、日本人の優勝可能な種目の一つであることを信じ、日本大学で、このスポーツの優秀な指導者を養成し、更には、その中から日本を代表する国際的選手を出したいと考えていたが、この夢は既に実現の緒につき、心ひそかに喜んでいる。

来るべきオリンピックの大会場に、へんぼんとひるがえる日章旗、そしてそのもとに立つわが部員の勇姿、これが今私の画いている未来像である。しかも、この未来像への曙光は既に見えそめている。なんと素晴らしい年であろう。私は今、年甲斐もなく、老いの胸を躍らしている。昭和三七・一一・二五稿

部誌創刊に際して

監督 門 脇 春 男

ながい間、県案であつた日本大学体操部の歴史を後世に残すことを願つておつた一人として、こんどの部誌創刊を心からうれしく思います。

顧りみますれば、わが部が武蔵野の一隅に呱呱の声をあげたのは僅か六年前、七十有余年の日本の歴史からみればほんの一瞬にすぎないが、私達体操部関係者にとつて貴重なる才月であつた。

昭和三十一年部員の数僅か六、七名、それも皆、大学に入学してから始めたという人が多かつた。その当時はマットと鉄棒位がせい一杯の練習であつた。器具は昭和二十七年体育館新築と同時に一級認定品が二台ずつ買つてあつたが、オールランドまでにはとても手が廻りかねた。同じことをなん回となくやりそして一つずつ技を覚えたものだつた。しかしこの当時の人も学年が進むにつれ授

業が忙がしいのか、練習場には顔がみられなくなつた。

昭和三十二年、高校界ナンバーワンの平川文雄君（能代高、経済学部卒）、高校時代において経験を積んだ吉川、岩本、芳尾、古市、堀田等を迎へ練習に励んだ。この夏、東京都体育館でのインカレオ二部に初出場し、堂々オ二位となり、基準点をマークし一部へ昇格した。また女子部を作るため合田恭子さんを（現稲橋恒行君夫人）日女短大より迎える。

昭和三十三年、この年は有望な新人を多数迎え大いに張切る。大阪体育館でのインカレは他校から警異の目でみられ、平川君を中心に新人を使つて堂々早慶明等老舗一部校をおさえ三位に入賞した。この時のテレビ放送を橘喜朔体育会事務局長が東京でみて感激し、電話で大阪の旅館へ果物を沢山とどけて戴いたことがあつた。一方女子は福田竹子（現、日本飛行機勤務）、小川文子（現実践女子高勤務）と合田さんの三人で活躍した。（編集者註、この年にメルボルンオリンピックで活躍を

した曾我部和子先生を迎える。)

昭和三十四年、現在の四年生を新人として迎えた。彼等は全国高校界のトップレベルを行く将来性のある選手達で、大学選手権で全国制覇を狙うべく最も強力な力を有するメンバーでもあつた。事実、六月の才一回の関東インカレで教大をおさえ二位に進出し、夏の秋田でのインターカレツチでは、僅差で教大、日体大に破れたが、関係者をして学生体操界は時代が変つたとさえいわれるようになった。この大会に初参加の早田現主将が跳馬の種目別決勝に出場してオドオドしていたのも記憶に新しい。(編集者註、この年に現在の体操界の才一人者、遠藤幸雄先生を迎える。)

昭和三十五年以降は別記掲載の記録の示す通り地味ではあつたが少しづつ点差をなくし前進を続け、遂に才二回関東インカレで優勝を成し得た。また今年にいたつて、札幌でのインターカレツチで男女個人総合優勝を早田卓次(才二回日ソ對抗出場)、渋谷多喜(世界選手権、才二回日ソ對抗出場)君が獲得した。

一方、海外遠征も数次にわたつて行なわれ国際学生選手権、ローマ・オリンピックク・アラブ連合招待、アメリカ遠征、北歐三国招待プラハの世界選手権、日ソ対抗等々ところ三年ばかりの間にあらゆる機会にわが部からメンバーが出場し、その都度大活躍をしてその名も世界に広く知られるようになった。

紙数も残り少なくなつたが、ここで忘れてはならないことを書き加えねばならぬ、それは三十五年度稲橋恒行、三十六年度吉川晃、三十七年高島健治君等が三代にわたつて学生連盟の幹事長の要職を務め、日本大学体操部のみならず、日本体操界の発展のため日夜努力を払つたことである。

部誌創刊に際し、氣持を新たにして勝利への道へたゆまぬ研究、未踏の技への挑戦、スポーツマンシップを根底した学生生活の確立、大学の発展、栄光のために努力を惜しむことなく、手と手をたづさえて限りなき前進を続けようではないか。

慈父のごとく暖かく育成下さる部長先生、熱心な御支援の体育会諸先生へ深く感謝しつつ

3.7.11.3

試合と私

男子コーチ 遠藤幸雄

わたくしの国際競技の初出場は一九六〇年に行われたローマオリンピック大会である。したがって多くの未経験を残すわたくしが、試合について書くということに相当の度胸を必要とした。

体操競技は他の競技種目にくらべて非常にデリケートな運動種目だけに相当な熟練を要し、男子六、女子四種目を規定問題、自由問題とにわけて実施するので、その運動量と肉体的、精神的疲労とは大変なものである。競技会に参加する以上、参加に意義があるのは勿論であるが目的は立派に勝つことにあると思う。目的達成のためにはいろいろな必要条件がそろわなければならない。それらの条件は一日にしてつくられるものではなく、日頃の熱心なトレーニングと節制ある日常生活の上に築き上げられるものである。つぎに私が過去

の試合を通じて経験したことを具体的に述べたいと思う。

一、睡眠

海外へ遠征するときいつも気の付くことであるが、目的地に到着してから、長い乗り物からくる疲れと、時差からくる身体の変調に悩まされるということである。今年七月チエコの首都プラハで行われた才15回世界体操選手権大会のときには、到着後二日間ぐらい日中に眠気がでたり、夜になつて目が冴えるといった具合に、気分のすぐれぬ調子の合わない生活をしなければならなかつた。疲労状態からより早く脱出するには、睡眠がもつとも適切であり自然な方法といえる。したがつて、環境の変化あるいは競技間近興奮状態のため、寝付きの悪いときには、少量のウイスキーを飲むことにしている。また試合前日には活劇映画、テレビ、碁、将棋等に時間をつかうこともある。

指導者の中には、夕食後まもなく選手を床につかせ、明日のため無理に睡眠を要求する人もいるように思うが、それはかえつて選手の興奮状態を

高め、寝付きを悪くする結果になりはしないだろうか。試合前は調整により、肉体的疲労は少ないわけであるから、睡眠をとるためには適度が必要になつてくるわけである。一方わたくしのようにウイスキーを飲むのとは反対に、選手の中には「酒も煙草も．．．」というように自我をこころして頑張るものもたくさんいることと思うが、いづれにせよ、十分なる睡眠をとり疲労を明日に残さないように心掛けるべきである。

二、食事と体重

食事と体重の調整も目的達成のための主要素である。またこの二つは車の両輪のごとく密接な関係をもつているだけに、日常生活において特に神経をつかい、試合一週間前から、そして試合中はその頂点に達する。ほとんどの選手は好調時の体重を常識としており、試合にはその体重で出場しようとする。一般に平常より低いのが普通であるが、低く調整しすぎても不調になり易い。

これが環境の変わる海外遠征のときには、とくに水と食物に細心の注意を払い体重の調整に努

めるわけである。肉食がおもな外国での食事ゆえ、量を制限したつもりでも増加の傾向がある。今回のプラーハーにおいても体重の増加があり、日本のむし暑い夏とはちがひ、しのぎ易い気候だけに練習でたくさん汗を出すことは考えられなかつた。そこでわたくしはホテルの部屋の風呂を利用することにした。

その方法はまず五分間ぐらい風呂につかり、上つてからただちにバスタオルで全身を覆い五分から十分間ぐらい我慢強く汗を待つことで、これを二回くり返したわけです。汗の量が増すたびに次才に好調になつていくような気持で心の安定を得ることができた。

実際試合場において、いつも自覚していた重い感じを意識しないで演技できた。

三、試合場にて

「試合」それは参加選手にとり、肉体的、精神的な試練の場である。入場前の窒息しそうな雰囲気過去に経験をもつ人であればだれもが知っているはずである。その度にわたくしは「ここまで苦し

まなくても……」と思わずにはいられない
気持においやられる。その間選手たちは一体ど
んなことを考え、思っているであろうか。上を
みているもの、下をみているもの、一点を凝視
しているもの、あるいは友人と談笑しているもの等、そのポーズはさまざまである。わたくしは、このよ
うな硬直した雰囲気にあるときは、相手の胸を
かりて脈をはかつたり、冗談を言い合つたりして
持を試合より遠ざけるよう努力する。さらに精
神的に悩まされるときは、これから演技を行う
うときである。全く生きた心地なしである。

私の場合、器具の前にすすみ出て姿勢を正す
秒間に、もし「あそこではこうやつて」とい
うなことが頭に浮んでくるうちは演技にはい
らな
いことにしている。ソ連選手の中には動物園
のごとく、あつちへ、こつちへと歩いてい
るものもいた。恐らく彼等は彼等なりに、
気持の落着く場所を歩きながら探して
いるのであろう。

勿論、演技の最中、何も考えずに行つて
いるわけではなく、例えば鞍馬の種目のときなどは「足を

下におさえて」と自分に言い聞かせながら
行く。演技をする場合、出発点につまづきがあつたとき、精神的動揺は大きく肉体的にも
タイミングの合わないものになる。過去の経験からしても
出発点にミスがない場合は、途中のミスも少なく、比較的高い評価が得られたように思う。

試合場における精神的な不安も結局は技の未熟によるものが多く、技のポイントを把握したべ
てラン選手に失敗が少ないのはそのためであらう。
技のポイントをよく把握しておれば、演技中にそのポイント
を考慮しながら演技できる余裕も出てくると思う。しかし、
相当な実力と自信のある一流選手においても失敗はある。
相手を意識しすぎたり、考えすぎて不安になるような精神
面での動揺もあるだろうし、その他自分ではわからぬ数多
い原因があることと思う。その原因を求め、解決のためには、
日頃のトレーニングを通じて技の法則を知り、精神面の
トレーニングをも積み重ねなければならぬ。それには相当の
年月を要すであらうし、あるいは一生かかっても足りない
かもしれない。

結びに、前述したように国際競技を経験して日が浅いが、中学二年生のときから試合に出場して十三年にもなる。過去をふり返えるとき、よくも飽きずに練習で過ごしてきたものと自分ながら驚く。この十三年間のきびしい練習と試合とは、わたくしの人間形成のためにどれだけ協力してくれたことか。それは母親のごとくやさしく、またときには氷のごとく冷たくもあつた。

選手生活はたゆまぬ努力と忍耐の上に保たれる。更にもう無駄な休養があつてはいけないと思う。ときには家庭を犠牲にしなければいけない非常に苦しい場合もあるが、試合によつて与えられる喜びは、それを十分にいやしてくれる。

わたくしの生涯忘れられない想い出は数多くあるが、なんといつても遺跡の古都ローマのカラカラ浴場での、ソ連との息づまる激戦であり、勝つた瞬間であり、そして表彰台上で「君が代」を耳にしたときのことである。そのときこそ、全世界の人々に、日本民族の優秀さと誇りとを胸を張つて示し得たときであつた。

どろどろ、べつとり

そしてそのものへ

女子コーチ 門 脇 和 子

六月十七日、関東インカレが行われた日に生れたわが家の長男は目下離乳中である。

満四ヶ月になつた日、かゝりつけのお医者さまへ健康診断に連れて行つた。お医者さまは「もうそろそろ離乳を始めて下さい。」「リニユー。」「言葉でいえば、簡単だが、なかなかどうして大変なことですよ、リニユーとは赤ん坊の教育の始まりですよ、母親がよく研究するんですな。」「と新米のママを前に一席ぶつた。

そんな説教をよそに、この新米のママは明日にでもお茶碗に盛つた御飯やオムレツ、デザートにリンゴやミカンなどをそのまま食べさせられるような錯覚をおぼえながらウキウキした足どりで帰宅した。

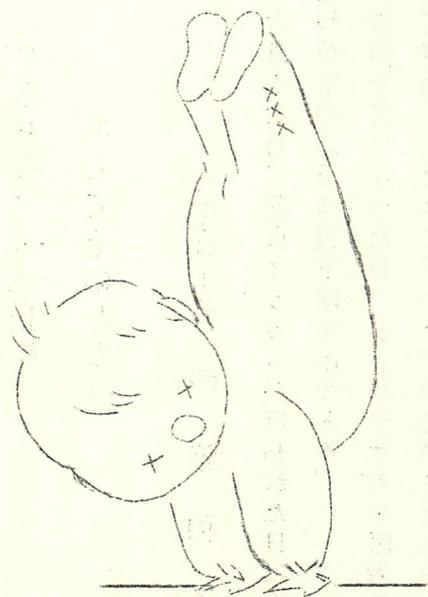
ところが、ところがである。

いざ、いつ、どんな形で与えるか、具体的な段
になつてくると、御飯やオムレツ等は一年も先の
ことなのである。一年先に御飯を食べさせるため
には、重湯↓ごくうすいおかゆ↓こいおかゆ↓や
わらかいごはん↓普通のごはんというようにどろ
どろ、べつとり、そしてそのものへと気長に少し
づゝ与えなければ消化不良を起して下痢をするの
である。オムレツにおいてもしかり、リンゴにお
いてもしかりである。始めて見る人にはとてもリ
ンゴには見えないどろどろのものをさじですくい
舌の上のせてやる、ミルクの味しか知らない彼は、
げげんな顔をして舌の先で味つてみる。まあ
まあ味のたナという顔をしてのみこむ、こうして
一日目は一さじ、二日目も三日目も一さじ、四日
目に二さじ、全く気の長いことではある。一週間
目には四さじ、もう食べるのが当然の権利のよう
な顔をしてペチャペチャと舌をならす。

一年先には、むきたてのリンゴを両手にもつて、
ガリガリと美味しそうに食べてくれるのを想像す
れば毎日の進歩は遅々たるものでも楽しみである。

体操を始めたばかりの人に宙返りをやれとか宙返
りをやれない人にガントツをやれといつてもどだい
無理なことである。それこそ消化不良どころか、
どこかの骨を折るのがオチである。宙返りをやる
ためには、前転や後転から、宙返りにつながらるや
さしい技を毎日コツコツとやつてゆけば一年さき
かまたは、もう少し先には、宙返りができるよう
になるのは確である。最初は消化しやすすい技から、
下痢などせぬように、どろどろ、べつとり、そし
てそのものへと進めてゆきたい。

・三七・一一・一五



日ソ対抗に参加して

男子主将 早田卓次

私の初めての海外遠征である日ソ対抗に、去る十二月二十七日夕方SAS機でコペンハーゲン經由で一路モスクワに向つた。

日本代表選手は若手を起用したので、平均年齢が二十二才という若きであつた。

二十八日午後十時半モスクワに到着した。雨が降り、肌寒かつた。ひつそりと静まりかえつた空港におりたつたとき、なにか非常に心細さを感じた。

レニングランドでは、二日間にわたる実演会があり、旅の疲れも抜けきらないまゝでやつたせいか、何か他人の技のようでした。

レニングランドをあとにトビリとに向う。トビリとはアルジェリア系の人が多く、ソビエトでは診らしい情熱的な都市であることが感ぜられた。

街を行かう女の人が口ひげをのぼして歩いているのにはおどろいた。

この街は、リングの王者アザリアンの出身地である。写真ではよくみかけるが、実物と会うのが初めてである。貫録十分で素晴らしく厚い胸はやはり「リングの王者」を思わせた。ここでもやはり身体が重かつた。二日間の実演会になにか私は疲れるばかりであつた。十分に練習をしたら調子がとりもどせるのにと少しいらいらする。

休む暇なく次の都市ウクライナに向う。試合までになんとかして調子をもどしたい気持で一杯である。遠藤先生はもうすつかり出来上つている、やはりベテランである。風呂に一時間近くも入り汗を十分に出して調整を試みる。食事の方も野菜を喰べたいのであるがこれも毎日の食卓にはほんの僅かしかのらず、果物は全然みることができなかつた。私としては最悪の状態である。

日ソ戦の団体総合戦がキエフでおこなわれることになつている。いよいよキエフに入る。ここはウクライナ人が多く、山の上には寺院が数多くみ

られ、街全体が静かである。

キエフには試合の前日に到着したので、私としては心を落ちつけ、日頃の練習の成果をあらわせるよう一層の調整に励んだ。日本での試合の前日はなかなか落ちつかず、眼することもできない時もあるが、ここではそのようなこともなく十分に睡眠はとれた。調子もどうやら良くなつてきた。次の日の練習も軽く感ぜられた。

午後七時開会式、さすがに緊張を覚えた。それもそのはず観容は会場にぎつしりと詰めかけ約九千人は入つただろう。一人一人が体操の経験者のようにもみえた。約四ヶ月前前にチエコのプラハで開催された世界選手権大会でソビエトが日本に敗れているだけにその声援はすさまじいものがあった。

試合は男子徒手から始められた。高さ一米もある演技台の上にあがる時は、まさに命の縮む思いがした。しかし自分でもまずまずの出来であつたので、今日はやれそうな気がした。鞍馬はつまらぬところでミスをし、前半得点二七・九五点であ

つた。明日は得意な平行棒、鉄棒で頑張ればいところまでゆけそうな気もした。

才二日目、試合は跳馬によつて始められた。試技一回目へヒトをやる。九・三〇点、着地が少しまずい割に点が出た。二回目をヒンターにする。しかしこの時迷いがあつた。へヒトにするかヒンターにするか一瞬の迷いが私の不覚をとる原因となつた。ポデーに足先をひっかけ、左ヒザを痛めてしまつたのだ。着地と同時に私の身体は左に傾むいて倒れてしまつた。得点の掲示をみることもできない位である。直に応急処置はとられたが左脚が全然動かないのである。しかしなんとかして思いながらも努力をしたが駄目であつた。目前が真黒である。今後の種目をどうするか、私としてはなんとかしてやりたい気持で一杯で、精神力のありつたけをふりしぼつた、残念だが棄権をせざるを得なかつた。

初めて日本代表として、ソビエト遠征しながら、世界体操界注目の日ソ戦の最中に怪我をするなんて、本当に申し訳なかつた。

ベツト生活をしながらいろいろのことを考えた。
ただ残念であつた。

他の選手より一週間早く羽田に帰つた私は、大学の附属病院に横たわつた。分厚いギブスに左足の自由をうばわれ、歩くこともできず部屋にとじこもつてゐる私には、遠征でのたのしい想い出は蘇えつてこず、私の脳裏には、大学の庭にある桜の木影に休みながら、練習に励んだ日日のことだけがあざやかに浮んでくるのである。
タンマグで白くなりながら練習に打ち込める日を一日も早くくることを念じています。



夏の遠征

—ヨーロッパ・札幌・ソビエト—

女子主将 渋谷多喜

今年が多忙な年であつた。未知の国への遠征、インターカレッツヂの優勝。僅か半年間に試合を通して味合つた数々の経験……

私の四年間の大学生活で一番強く印象に残つてゐることは、なんといつても、ヨーロッパ遠征直後のインターカレッツヂでの個人優勝であり、団体総合二位という記録であつた。

初夏の六月二十二日午後、羽田を発ち、プラハ—での世界選手権を皮切りに私達日本選手団の武者修業が約二ヶ月間続けられ、心技共に十分にきたえられて最夏の東京に帰つたきた。羽田空港におりたつた瞬間、日本に帰つたという気持と、暑いなあとという気持が交叉した。一泊後、わがチームメイトのおる札幌へ飛ぶ。

北の都札幌はさすがに涼しく、試合前の身体の

調整には最適の地でした。もしこの私にとつて最終学年の最大の試合であるインターカレッジの開催地が他の都市であつたら、おそらく優勝はとうていおぼつかなくかつたことでしょう。わたくしは疲れており調整に細心の注意を払つた。札幌では、部員が必勝を期して高松の合宿、青森の合宿を終えて私の来るのを待つてくれなにかと気を配つて私の身体の調整に協力してくれた。三日間の試合は苦しいものであつたが、なんとかしてチームメートの調子に合わせて団体優勝を狙い慎重に技を続けた。みんなが一生懸命やつているのに私だけ疲れているという理由で少しでも力を抜いてはいけないと思ひながら闘つた。結果として前述の如く、私としては願つてもない学生最高のタイトルが転げこんできたのであつた。と同時に才二回日ソ対抗の日本代表選手にも選ばれるという附録まで付いてきた。遠藤先生、早田男子主将と共に、ソビエトへ遠征できることになつてしまつた。

かねてから体操の女王の住むソビエトに渡り、どのような練習、いかなる器具を使い、その環境を知りたく思つていたので、前回の遠征をもとに調査すべきもの、その心構え等につきあらかじめ準備

をして遠征の途についた。

その調査すべきことの一つに女子選手のリズム感覚の養成についてソビエト体操界ではどのような方法でそれを実施しているかである。私は腰や脚、あるいは手首なんかは比較的強いのであるが、柔かさが少し不足しているのでもいつも徒手、平均台で損をしている。これがもう少し柔かで、素直な動きが私に可能ならば技の進歩もあるうものと思ひこの点についてなんとかして解消すべく努力してきたのだ。

ソ連では、この点に関しては、音楽と動作を小さい子供、特に十才位の身体のややできつつある時期にこの両面の教育に力を入れており、動作の素直さを失なわないう指導者は注意していた。体操は美を技によつて表現するスポーツであるからしてこの体操への導入法は正しいものである。体育館内はいつも一定の温度によつて保たれ、器具も配置したまゝであり、掃除も行きとどいた環境の中で練習の能率は挙げざるを得ない。これは決して大きな体育館ではなくきわめて小さい建物である。そこに三三五集まりそれぞれ練習に勤んでいる。トレーナーは医師のカルテ同様、そ

有望株の日大体操部

全日本学生体操連盟

幹事長 高島 健治

の選手のウイークポイントを矯正すべく指示をあらかじめ与え、技が無理なくおぼえられるよう、また自然なこなし方ができるようアドバイスをしている。平均台に上ると五分間くらいは降してくれない。とにかく簡単な技でも反復し、意識下においても動けるよう訓練させられている。選手は徹底的にしほられ、技には絶対に妥協が許されない。美の追求はきびしい。ソビエトスポーツ界の合い言葉、「追いつけ、そして超越せ」の鉄則は固く守られている。選手の眼差しは真剣そのものである。

技への飽くなき努力、自分との闘い、彼女等は体操へ首を突込んだその時からの宿命なのだ。

私もまた同様である。只私はその努力のしかたがまだまだ足りないのだ。私自身納得のゆく体操をしたいと常々考えているがその日は遠いような気もするし、また案外近いところにあるかもしれない。要するに私は今なにかを掴めそうな気持ち一杯である。

最近の兜町における株の話はあまり芳しくはないが、わが国の体操界における成長株はなんといつても日本大学であろう。

現在、全日本学生体操連盟に加盟している大学の数は五十九校あるが、その中に日本大学の名が注目されはじめたのは、今から五年前の昭和三十三年からである。当時、伝統を誇る早稲田、慶応をはじめ、優勝争いの教大、日体大等を相手に突然現われたのである。その後二年目にして関東インカレに男子は堂々優勝した。女子においても常にAクラスを堅持し、今年のインカレでは常勝教大を破つたのは立派で痛快なことであつた。

また最近、体操協会の海外遠征に日大から代表を数多く送れることにいたつたことは誠によろこばしいことだと思えます。

このようにめざましい驚異的な発展をとげた原因についてはいろいろの見方があるだろうが、私は三つの点について述べたい。

その一として、メルボルン、ローマオリンピックで大活躍をした曾我部和子選手、(現門脇夫人)ローマオリンピック優勝の原動力をなした遠藤幸雄選手等の男女一流コーチを持つている点である。その二に優秀な選手層を持つようになった。その三に、現在の日本体操界の流れを絶えず知り、総合的な発展に対する適応した判断を下だす門脇監督のエネルギーな動き等々がうまく組合さつて現在の日大にいつたものと信じています。

歴史の浅い体操部ではあるが、これからの活躍が大いに期待できる。部員一丸となつて全てに負けない熱意と創意を惜しまず、ニューフロンティア・スピリット(開拓精神)こそが勝利への道であることを忘れてはならない。以上の諸点からして日本大学体操部は今後の有力な成長株であるといふことがいえよう。



これがエンドウ

エス・トカレーフ

ユキオ、エンドウは、まるで、弾性に豊んだ鋼鉄の針金のような身体をしている。

彼が器械に寄つてゆく。その顔は沈着そのもの、そして、大きながっちりした顎が印象的である、それは信じられぬ程によくその意志の強固さを表わす。

さて始まる(註・徒手体操)テムポ、テムポ、テムポ。突然、ぴたりと止まる。まるで石だ。

彼はこのような急停止ができるのだ。ポーズの一つ一つは彫刻さながらである。

その場からまた テムポ。

彼のリズムを私はリズムがないと言う。

ここにも彼の技倆のよさがある。

この停止、静的なポジションについて特にことばを付け加えねばならない。彼は片手で水平バランスを保っている。瞬間に頭と顎をよくみることは値打ちがある。頭の型はブロンズ（青銅）の鋳物にしてもよい。もつともそのままでもブロンズの鋳物である。

吊環のエンドウ。世界体操界の大芸術家、アザリヤンの「十字懸垂」を相起したまえ。巨大な筋肉が硬く盛り上り、きついものだ。それに比しエンドウは、軽く微笑さえ堪えている。これは征服というものであり、その中には美がある。

エンドウは全く別だ。彼は小さく敏捷であり、まるで、翼を広げた鳥が空中を舞っているようだ。この自然さは驚くべきものである。燕の飛翔と強力な空中ライナの飛行、この正反対の現象も彼自身飛行原理によつて種々に表現される。しかもそのいずれもが美しい。人間は自分の体に絶対に勝てるものであることをエンドウの芸術が示している。

着地がいかに難しいものであるかは周知のことであつて、いつでも「止め」と呼びたくなるほどのものだ。「ドシン」と演技場の床板が鈍い音をたて体操家は落下する。

安定を保とうと努力し、その安定を得るために身体は義務的に伸びて止まる。

だが、エンドウは猫のようだ。否、別ない方をすると留針のようだ。彼は足先で床板に吸い着く、そして絶対に音をたてない。このユキオ・エンドウはニホン大学の先生である。弾性に豊んだ鋼鉄の針金だ。

註、この便りは十月三十日モスクワで行なわれ日ソ対抗戦の模様を一九六二年十月三十一日付で一流のスポーツ記者エス・トカレーフが書いたソビエトの新聞を、遠藤選手の熱心なファンである札幌市在住の本橋正治氏が訳して送つてくれたものである。

F I G 報告

I 採点規則改正の件 i

F I G 即ち国際体操連盟 (Federation
Internationale de Gymnastique)

の報告を載せることにしたが、この規則改正の件は、昭和三十七年六月二十日附で日本体操協会に連絡があり、この規則改正の国内での実施はもう少し時機を待たねばならぬが、このような傾向に変わりつつあることを覚えておいても構わない。体操の内容も少しづつ変わりつつある現状をみつめて、種目の構成も考えねばならぬ。

一 徒手の継続時間を一分とし、前後十秒の誤差の許容する。

二 中間振動に対する減点を 0.3 / 0.5 を 0.2 / 0.5 とする。

三 独創性のある技の実施者に対して 0.3 までを賞として与える。

四 跳馬の種目別決勝において、自由種目の跳越し

二種実施し、その一種毎に二回試みを実施し、両種のそれぞれの最高点の平均を得点とする。

五 種目別の決勝において、C 部分 2、B 部分 4、

A 部分 6 を必要とする。

六 C II 0.6 B II 0.3 A II 0.2 を C II 0.6

B II 0.4 A II 0.2 とする。

七 難度 3 点を 3.4 点

組合 2 点を 1.6 点

実施 5 点を 5 点とする。

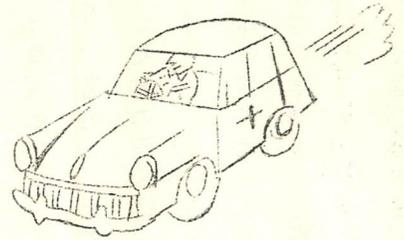
八 鞍馬の自由問題で両脚を逆旋廻はしなくてもよい。但し規定問題ではこの運動を要求する。

九 平行棒、徒手の姿勢保持の継続時間を 3 秒から

2 秒に減少する。但し吊環では 3 秒とす。

十 跳馬の自由問題では、その実施種目を事前に申告しなければならぬ。

腰痛



運動傷害

いろいろ

最近体操選手いや、スポーツの選手で腰痛を起しプレー上大いに支障をきたし、さらには日常生活にも楽しかるべき日を暗い気持で送らねばならない人が多くなってきた。そこでこの「腰痛」について調べてみよう。」

相撲界の不運の横綱朝汐、プロ野球界の今冬ストーブリーグの焦点の西鉄の強打者豊田、あるいはわが部今年の名総務の菊地君、女子主将の渋谷君等々名前をあげると数限りない。

「腰が痛い」という目覚症状を感じるのは、慣れない仕事をやつたり、農夫が無理な姿勢で田畑で仕事を長い時間やつたり、中腰で重いものを急に持ったとき、さらに文士が毎日座つて小説を書く等の体格に合わない無理な姿勢の毎日が続くところの腰痛という事態が起る。この痛みをかばおうとして無理な姿勢をとるため違う場所まで痛くなる。

この場合、顔を洗うこともできない、寝てから寝返りもできないというひどいものや、そうでない軽いものもある。だが、ほとんどの場合、本当の苦痛の他に不安からくる精神的なものがある。レントゲンで精密検査をしても医学的にはなんでもない場合が多々ある。だが患者は「痛いものは痛いんだと反発する。この場合どんな名医でも原因不明の腰痛症です」といつて引きとつてもらうよりしかたがないという腰痛もある。しかしこの種の腰痛ももつと詳細に身体の一部を調べてみるとその原因も分つてくる。これは、腸、腎臓等の内臓の病気が腰痛をともなう場合は多い。また婦人

科関係の疾患でもこの腰痛が多い。これを関連痛といえよう。例えば、胃が痛いときは背中も痛む、心臓が痛むと肩から右腕にかけて痛む。このように、背髄の後を通る知覚神経の同じ場所から神経がいつている部分は同時に痛むのだ。これを関連痛という。この場合は原因になる病気の他の症状も同時にあらわれることが多く、割合はつきりしている。だから、関連痛で起る腰痛は、元の病気を治療すれば治る。

ここでの私の述べたいのはこれらの原因とは別の運動障害の腰痛である。

腰痛は骨と大いに関係があり、その中で特に一番多いのは骨関節のカリエスである。この背椎カリエスとは、背椎骨が結核におかされて腐る病気である。(初期の症状は、はじめ背骨に鈍い痛みが起き、静かにしているとほとんど痛みを感じないが、身体を前に曲げると痛を増す。一昨年暮れの渋谷君の腰痛もこの疑いで約二ヶ月入院したことがあつた。しかしこれではなかつた。)

ところで本論に入るとして、われわれスポーツ

仲間が一番かゝるのは、椎間軟骨ヘルニアである。いままで腰痛症とか坐骨神経痛とかいつて、せいぜい鎮痛剤でごまかしてきた腰痛の本体がはつきりしてきた。

この椎間軟骨ヘルニアとは、腰椎と腰椎の間にある椎間軟骨がとび出してくるものである。突然重いものを持ち上げたり、かついだりした時に腰の辺がグキンという音がして座りこんで痛みを訴える場合やこのような動機が全くなくても起る場合もある。体操の選手の場合は、アツプ不足で急に種目に入つたり吊環のプレス倒立、急激なひねり技、女子のブリツヂを実施した場合に多い、特に最近目立つて多い原因は着地の際である。高い所からとび下り腰を伸ばして静止せねばならないこの動作は背骨に大きな衝撃を与え、椎間軟骨ヘルニアとなることが多い。

この椎間軟骨は、中心にまろい弾力性の髄核があり、周囲を線維輪が取り巻いている。無理な力が加わるとこの線維輪が切れて、なかから髄核がとび出す。これが背骨の後を通つている知覚神経

を圧迫し、「痛み」というものが起るのである。あるいは椎間軟骨の老化が原因することもある。

この他、変形性脊椎症というのものも割に多い。

腰椎のかが尖つて知覚神経を圧迫し腰の痛みを感じさせる。また脊椎分離症というものもある。横綱朝夕関を悩ませ引退を早めさせたのはこれである。

要は私達スポーツマンは、他の運動傷害を引き起さないためにも常に準備運動を十分にし自分自身の身体を大切にしなければならぬのである。

三七・一一・一八記



アキレス腱切断

私がこの原稿を書くにいたつた動機は、書籍を整理したら、昭和三十四年の練習日誌に「わがチームの至宝、平川文雄君が丁度一年前、即ち昭和三十三年三月四日にアキレス腱を切断し、わがチームの昨年は苦しいスケージュールであつた。

「アキレス腱切断」という事故を再び繰りかえしたくない気持から、アキレス腱とはどうゆうものを調べる」とあり、三四月三月のデータなるものを皆様に披露し、この種の怪我の多い十二月から三月にかけての練習には十分の配慮が望みたい気持からである。

不死身といわれたギリシャ神話の英雄アキレスが、洗礼のときにそこだけ水がかゝらなかつたばかりに、踵の上に矢があたつて死んだ箇所即ち、踵の骨と脛らはぎの筋肉を結ぶところを、アキレ

ス臆と呼ぶが、これを切つたためにスポーツマンとしての生命を絶つた例が非常に多い。この臆の役目は、つま先の上げ下げ、つまり歩いたり、走ったり、ジャンプをするごと一切を引き受けている大切なところで太さは大人の中指位で、長さは七・八センチもある、他に比してずばぬけて太い臆である。だから切れる時は、大きな音がする。

ぬれたタオルをひろげて、ぼつと振つた時の音、マツチ箱をつぶした時の音。。。ピシャという音である。切つた本人は、臆を蹴られるような、棒でなくられたような感じがするさうだ。

切れ方は、大きく分けて開放性切斷（外側から切られたような場合、自動車事故で多い）と皮下断裂（普通の切斷）がある。この後者は急に止まったり、踏み切つたりの繰返の多いスポーツに多く、剣道、バスケットボール、テニス、体操、陸上のハードル、ハイジャンプ等に多い。

アキレス臆が、どの位の張力に耐えるかについては実験データはないが、切つた経験者の言によれば「ここで、ひとふんばり」という意識が働

いた時が、切れる時だそうだ。しかし、このような意識なくとも、階段をふみはずしたり、凹みに踵を落したりするとつま先が瞬間的に上に強く曲げられ、アキレス臆が伸び、切れることもある。体操選手の場合、前々からふくらはぎが少し張つていたとか、臆の痛みを感じていた、という場合に切る場合が多い。したがつて一寸した不注意から、スポーツの寿命を失うことになるから、痛みを感じたり、マツトの状態が悪いときには十分に注意した方がいい。あるいは、臆そのものを極度に冷やしきつておるときに痛めやすい。使い過ぎて炎症を起している場合は湿布をして使用を中止した方がよい。皮下断裂即ち切れた場合は、直ちに脚を固定し医師の診断をおおいだ方がよい。

切れても現在の外科医療では、日常生活に影響しない程度になほるのみか、スポーツマンとして再びトレーニングに耐え得るようになる。

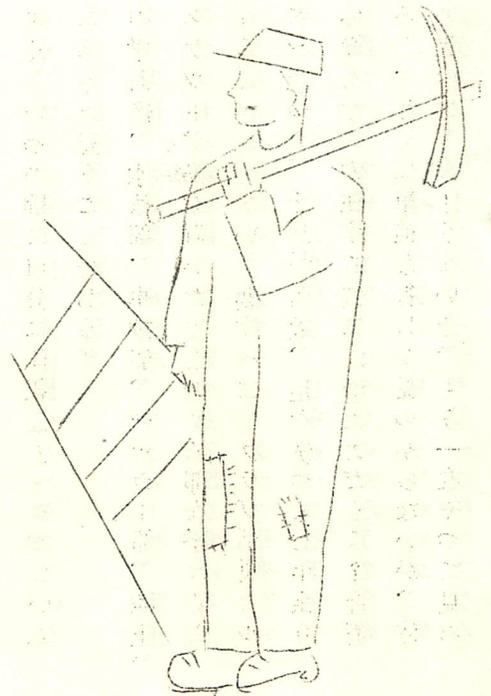
切れた臆の切断面は彫のように、ばらばらになるが、切れた臆を一本づつ絹糸で縫い合わせておくと結合織という組織ができ、四・五週間目には

もとのアキレス腱の組織に回復する。

切れたあと長時間経ると、脛はぎの筋肉が収縮して上へあがつてしまうから切断部のギヤツプが広がり手術の際、腱を一本づゝ医師が手でさぐりながら引張り出して縫合している。それでも足りない場合は太腿の外側の筋膜を切りとりたばねて使うことも多い。

このような怪我がなければ一番いいのだが、万が一切断という事態になつても、必ずなおるということを忘れないで精進してもらいたいものだ。

三七・一一・八 再記



線路工夫

総務 菊池君男

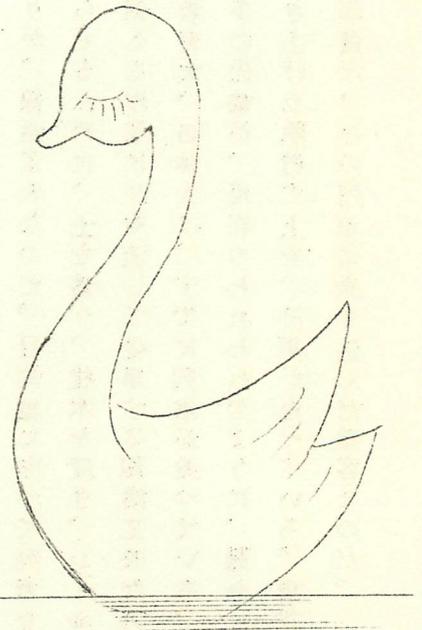
われわれは線路工夫だ。われわれ部員一人ひとりが、線路工夫なのだ。目的地に向つて列車を走らせるために、土を盛り、枕木を置き、レールを据える作業に汗を流して従事する線路工夫なのだ。教育大、日体大は、すでに列車が走っている。数多の先輩が、現在のわれわれのように、懸命に築き上げた軌道の上を、列車が走っている。現在の部員は、その列車に乗り込んだ乗客なのだ。

我が部は、創立以来六年、先輩の努力でどうか青写真ができた。われわれは、その青写真に従って基礎を築き、目的地向つて軌道を伸ばす努力をしなければならぬ。目的地は言うまでもなく学生の王座につくことだ。インカレで勝つことなのだ。

われわれは、乗客になりたがつてはいけぬ。まだ、その時期ではないのだ。あと何年かゝるか分からない。とにかく、われわれが軌道を築くのだ。

急ぐあまり、いゝかげんな作業をしてはいけぬ。列車が走れば、すぐ事故を起こしてしまい、乗客は目的地に到達することなく、ほおり出されてしまう。われわれの責任は重い。しかし、立派に軌道が完成し、列車がつつばる日を思えば、やりがいのあることではないか。

部員一同、線路工夫たることを自覚して欲しい。



ただ見れば、何の苦もなき水鳥

高田信興

よく、いつの間にも自分は体操なんかやっていたのだろうと思うことがある。

中学時代、水泳部、卓球部、サッカー部、陸上、バスケット、籍を置いたことのある部を挙げるとあげるときりがない。要するに、クラブ活動のルンペンだった。それが何故、足を洗つて七年余りも体操だけに安住する気になつたのだろうか？今考えると、極めて単純な答しか見つからないが、体育の先生に、お！うまいぞ、もう一度やつて見る

！と言われたひと言が、日頃先生などにほめられたことがないのも手伝つて、恐らく、この動機の一つが、一生を左右したのではないかとさえ思われる。その瞬間から今この現在まで、同じ鉄棒にぶら下り、マツトでひつくり返り続けて来たが、初めの頃は、＼その気になつて＼やる体操であり、高校時代は自分自身ただ体操が面白くて夢中になつてやつた。大学でやる体操は、複雑で一言では言えないが、高校時代に面白さだけでもつていたのが、確かに、その綱は一度は切れ、そこから大学の体操が始まるのだらうと思う。

マツト運びや掃除夫代りに来たんじやねえやと思わぬ人はいないだらう。高校時代、友達の様にしていた先輩も、同じ大学の体育館で練習する段になると人が変つた様に話しづらくなる。しかし、やがて腹が立つたからと言つて相手につつかかつていたら如何に損をするか、苦しいからと言つてやめてしまえば、如何に自分が不甲斐ない人間であるかが解り、それこそ、ハイそれまでヨ、である。

大学での部生活では、技術的な事は二の次であるが、技術的に進歩することによつて、誰もが得ることの出来る練習からの体験より、もう一段人間を追いつめて、自分が苦しんでいる状態での体験を得ることが出来る。これは試合のその瞬間だけでないに、その準備期間を入れない訳にはいかない。この期間の苦しさと長さから言つたら試合などはほんの瞬間で楽なものである。

ここでの体操は、苦しめば苦しむ程、その報酬が返つて来る。またその様な苦しみ方でなければ無意味である。

毎日同じ時間練習やつているのに技術的に差が出て来る。中には自分には才能がないと、あきらめ半分の人もあるかも知れないが、ありがたいことに、こればかりは、それ以外の何かであると思う。もし才能が必要だとすれば、それは努力することの出来る才能であり、如何に苦しさに耐えるかと言う才能であると思う。

水鳥が水面を美しくすべつて行くのには、水中であの小さな足を、如何に一生懸命動かしていることか？

努力

田野 哲

『師は逝けり、五輪の花を夢にゑて』

中学時代、体育に自分を導いた恩師の俄かの死に、遙かり折りをさしげながら筆を取る。オリンピックを日本に迎えるにあたり、栃木県の有能指導者として、栃木が持つ役割に寝食を忘れていた先生、この先生に導かれて体育の道に入った自分は決して恵まれた天分の持主でない事は自分が一番よく知っている。それなるが故に自分は努力した。大学入学以来、優秀な素質者が一気に走りぬけ、進みつつける細い道を、自分は自分なりに後れども後れども追いつづけるつもりでどうにか置き去りにされずに選手の道を歩み続けた。努力！これがスポーツ精神のすべてであると自分は信じる。努力による意志の練磨！これが健全なる精神と肉体とを作る道である。

健全なる精神は健全なる肉体に宿るとは、昔からききなれて今尙新しい言葉である。最終学年にあるものとして近き将来に迎える卒業を思い、後輩の人々に送る言葉はただ『努力せよ』の一言だけである。健康なれば明朗そして努力に堪え体操の技術を磨くと共に、良き心境をも開拓する良き実りとなり得るであろう。体操は技術者を作る事ではなく体操を通じて立派な人間を育成する事であると思う。どうか後輩諸君よ、体操生活を通して一本筋のある人間に成長して下さい。

一一・三〇記



根性でぶち当れ

上野 剛

ああ、また練習か、と思いつながら三年と数ヶ月は過ぎ去つてしまつた。部に入つた時は一年の部員は多かつた。しかし今何人のこつているだろう。あの時はみんな体操好きだつたのになあ、「なぜ好きなものをトコトンまでやらないのか」、あの頃はほとんどインターハイ、国体等に出場した経験者の連中ばかりであつた。その中の自分は本当に無から始めた自分だつた、でも今に見ている人に出て来て自分に出来ないことはないと頑張つた。練習場においての刺激はすごかつた。はじめは見ているのがせいじつばい、先輩に言われてやつと器具にさわるぐらい。自分だけいつも取りのこされたような気持で毎日を送つていた、しかし体操はおもしろかつた。そして自分なりの目標をきめてそれに近づこうと、少しでも練習に励むことに

自己満足を感じていた。こんなふうにならなからも下積みの生活はつづいた。この四年間、部生活をしておる間一日として優勝への夢は絶えることはなかつた。われわれ四年生は何事にもやり抜く強い精神力と困難を乗り越えるだけの強い意志とで戦つてきた。われわれに出来なかつた喜びを後輩諸君がなすとげてくれ、勝利の為の道はけわしく敵も多い、しかしその敵を倒す為には、まず練習である、練習によつて自信を持つこと、己れと勝負することである。どんな苦しさにも怪我にも堪え抜いて行けるだけの精神力と体力とを毎日のはげしい練習の中から生み出し常に勝つことを頭において練習にはげみ努力してくれ、勝つことは難かしいことである。しかし決して不可能なことではない。

試合に勝つことは、練習の苦しみに打ち克つてのみ味合えることである。

卒業を前にして

建部盛蔵

昭和三十三年春に世田谷の校門をくぐりて早や四年もすぎんとしています。

「光陰矢の如し」とは誠にその通りで、私にはこの才月の短かさに今更ながらおどろいているしいです。

自分は一年の頃から試合に出ておつたせいか、今の下級生部員がじっくりと基礎的なトレーニングをやっているのみをみてうらやましいと思う。この基礎ができているとスランプになつても割合早く回復できるものであるが、私の場合この点については大変苦勞した。後輩諸君にも必ずこのスランプがやつてくると思うが、決してあせることなく前の段階からやりなほすことが大切である。新しい技を覚える苦勞、スランプから脱出しようとする苦勞、同じような苦しみを味合いながら進歩してゆくことを忘れないでもらいたい。

優勝するには、他人の、他チームの何倍となく苦勞を重ねれば勝つことができなのだ、そのためににはじっくりと練習をすることだ。
勝負は勝ねばならない。

OBの近況

堀田淳二

近況といつても東京育ちであるし、日曜の度に体育館でみんなと顔を合せているので、別にこれといつて変つたことはない。今は、オヤジの仕事（材木業）を手伝っているが、次男だからその中に独立でもして自分で仕事をする積りだ。

最近の体操は変つたね、倒立だつてずいぶんきれいな線がでるようになった。倒立は静止運動としてはなく、連続技としてやるとすればあのような姿勢が良いだろう。

連絡先 北区東十条三の九 堀田産業EK

電(九二一) 四九〇九 経済学部
三五年卒業

成功は希望からではなく努力から

新主将 山中 勝 男

僕の最も好きな言葉に、「成功は希望からではなく努力からくる」。高校二年の頃からこの言葉が気に入ってこの言葉に向つてがんばつて来た。

僕自身としての「成功」はまだまだ先である。「成功」と言うものは近くにあるようではなかなか手にとどかないものである。

この言葉は僕が六年間行なつた体操操を主体として言っているのであるが他の全ての事についても言えることでしょう。

例えば会社に就職した場合でも「成功」という事は誰でも心に思っている。それが何でもあれ（課長又は重役のように早くいいポストにつきたい）こうした場合ただ会社にて皆んなと同じことをやつて、五時になつたから帰るといふようではどうして「成功」（目標）に達することは、なかなか

出来ないと思う。それにはやはり、人により一歩進んだ何かをしてこそ、はじめて目標に達するのではないかと思ひます。

現在我々が、毎日練習している体操については特にこういふ事が言えるのではないかと思ひます。僕自身としては後一年しか体操をやる機会が、この言葉に向つて一生懸命にやりたいと思つています。

しかしこの言葉を他の方向から見た場合、実際に「成功」しなくてもその「成功」に向つて努力したという事自体がもうすでに成功したと言うことが出来るのではないかと思ひます。

「成功は希望からではなく努力から来る」この言葉は僕のものでもなければ誰のものでもない全ての人のものです。そして又僕だけがこの言葉を好むのではなく皆なが好きになつてこの言葉に向つてがんばつてもらえればうれしく思ひます。

私の体操の歩み

総務 志賀正昌

「体操」という名前自身嫌いだつた。何故なら、小中学校時代には、身体が弱く運動に適していなかつたからである。体操をやりはじめたのは自分を強くするため高校二年から始めた。体操（器械）の動機はここいらにあつた。器械体操は自分が行なうより、各試合の妙技に圧倒され、見学する方が大であつた。現在も同じ心境に近い。器械体操を始めてから体も強くなり、以前、病気がちな僕が病氣一つせず、自分自身の自覚で丈夫になつたことは家人はとにかく僕としては大変嬉しかつた。一生涯忘れないだろう。このために現在でも試合に出たい！うまくなりたい！こんなことよりも体操を愛好するだけで満足なんです。高校時代は恥かしいながらも満足にならない試合にも出場したけれど、コンディションのよい季節は何といつて

も夏の暑い時。夏は好きだけど一ヶ所弱いところがあるそれは水泳である。何もいいたくないね。

夏・夏・夏

調子よいのだがかならずといつていいぐらゐ怪我をする。そのよい例が高校一年の夏、コンクリートの上に右肩から落下した。医者の診断は「右鎖骨不完全骨折」腕、体縛られ毎日病院通い。ほんとに体操やめる決心したよ。現在でも恐怖になつてるからね。今じや私しやマネージャー稼業。一年の時に関東インカレに日大初優勝、嬉しかつた。日大体操部が創立されてから約三年で優勝したのだから学生界の『目』だつた。現在では部員も約九十名。多いね、今後の目標は全員一丸となり何事も助け合つて行こうということだ。

一年生も苦しいと思われるが、社会の一勉強として行なつてもらいたい。僕自身も最後なのでまけずに頑張るぞ。また部誌才一号を編集された編集委員一同御苦労さん。これからも部誌の記録と共に新たな日本大学体育会体操部が発展されるよう祈る。

合 掌

できてもできなくても

三年 小松 武雄

知能指数50は精薄児であるが、武雄が体操を始めた高二の当時、体操に関する武雄の知能指数は50以下、悲しき十七才だった。何しろ体操といつたら、マツト・鉄棒・跳箱の他はみた事もないのだから全くおそまつである。

現在の大学の体操と比べたら、遊んでいるようなものであつたが、実に楽しく高校生活を送つてきた。勿論いろいろな問題もあつた。

勉強と運動とは両立するか。誰かが云つたつて「あちらをたてればこちらがたたず、こちらをたてればあちらがたたず、両方たてれば自分がたたん」と。もし体操をしていなければ現在のようないやうな陽気な人間？にはなつていなかたであらうし、とんでもない道を突走つていたかもしれない。そんな僕が大学の体操部に入った時、皆の技をみて、

武雄もあの位できたらなあと心の隅で考え、今まで何をしていたか自分に問う事がしばしばあつた。でも高校生活を楽しくしてきた体操をやめる事の方が恐かつた。最初は誰か手とり足とり教えてくれないかなあと考えた事もあつた。しかし大学生なら自分自身で技をみがき自分の生活を築きあげるべきだと考え直し、周囲の刺激された又圧倒された環境の中で練習らしい練習ができた。怪我をして練習を休む事もあつたが、技も僕なりに上達したつもりだ。歌の文句ではないが、それが何より証拠には、今できる技のほとんどが大学で覚えたものである。僕の学生生活に於て、体操は幾人かの友達をつくつてくれたばかりでなく先輩後輩と広くつきあえる事も部生活を送っているからであり、更に体操を通して中学生高校生ともつきあえる事がより僕の生活を励ましている。技ができてもできなくても、体操をしてきた事を後悔していない。技よりも良いものを得た又これからも得られる気がする。

桃栗三年柿八年。ダルマは九年、オレは一生。
人間の努力は一生継続けねばならない。

OBの近況

芳尾 明

会社という機構に入つてから早や三年、学生時代と違つて自分勝手なことは許されない、それと反対に責任は大変重い。私は総務課人事係というところで働いており、会社の人事一切をここで処理している。誰れがどこでどのような仕事をしているか、その家族はどうなつているか、会社の生産の原動力となる人のことだけにいろいろと気をつかう。ところで私の会社は、サーモスタツト（自動制御器）を製作している。その利用範囲は、家庭の電気製品から、人工衛星までと限りなく無限に広く利用されている。

非常な小さなしかも簡単な構造であるが、近代社会においてはあらゆる分野に利用されている。

私の仕事も会社という機構のはんの一部ではない、しかし私の仕事は大事な仕事だ。

連絡先 品川区中延五ノ八〇二 日電工業KK

電七八三〇一一 商学部三五年卒

国際競技への政治介入について

三年 金子洋平

先頃行なわれた才四回アジア競技大会では開催国のインドネシアが台湾とイスラエルを競技に参加させなかつた。その理由は台湾は一国の代表でないから参加の資格がないという理由だと台湾はアジア競技連盟の加盟国であるし、又イスラエルは宗教上の理由からというのも理由にならない、またこの二カ国とインドネシアと国交がないとの理由も成立しない、それは国交のない韓国が参加しているからだ。

この二カ国の参加資格の有無はアジア競技連盟が決めることである。しかしインドネシア政府はインドネシアと交友関係にあるアラブ諸国と中国の顔を立てアラブ諸国と敵対関係にあるイスラエル、中国と敵対関係にある台湾を拒否したのだといわれるのである。若しそうだとするとこれこそ

全く政治的意図で参加を拒否したことになる。このようにスポーツに政治が介入するのはその国の国民の知能程度の低さに直結するものである。知能の進んだ国民を持つている国家においてはそのようなことは起らないだろう国民の知能の低い国は独裁主義が多い、今度のインドネシアもすべての権限は大統領にあるためにインドネシア組織委員会は台湾とイスラエルに才四回アジア競技大会の招待状は送っているのだがインドネシア政府がこの二カ国に対して入国査証を送らなかつたため二カ国は入国が出来ず結局アジア大会に参加出来なくなつてしまつた。インドネシアは知能の低い国民が多いために二カ国の入国が政治的理由によつて拒否されたことについて政府に抗議を申し込まなかつた。また申し込んだとしても余程のことがない限り抗議を認めてくれないだろう。一方才四回アジア競技大会に参加した国々の態度はどうであつたのか、台湾、イスラエルの二カ国が参加出来そうもないうちに開会式がせまつてきた、各国が色々相談してアジア競技連盟組織委員会が

インドネシア政府に抗議を申し込んだがひきのばし戦術にあつて開会式に至つてしまつた。各国は日本が参加するので開会式に参加した。そして重量挙げを除いて競技を開始してしまつた。インドネシア政府はこの二カ国を参加させないで才四回アジア競技大会を終らせようとしていたと思われ。これをくつがえして台湾、イスラエルを参加させるには才四回アジア競技大会に参加した各国の選手、役員が団結してインドネシア政府に対して台湾イスラエルの二カ国の参加拒否はオリンピック憲章の基本原則の才一条にもまたアジア競技大会憲章の基本原則にも違反するものであるからわれわれは才四回アジア競技大会を認めないし、この大会にも参加しないとつたならばインドネシア政府も台湾、イスラエルの参加を許したのではないだろうか。スポーツ競技に政治が介入する事件は才四回アジア大会で起つたが最近またフィリピン政府がスポーツ競技に対して政治介入を行なつてゐる。このように一度でも国際競技の基本原則が無視されるとつぎつぎとそのような事件

が起つてくる危険性がある。我々は二年後に東京オリンピックをむかえる国民として、またスポーツの技術の向上も必要だがスポーツマンシップを身につけることが必要である。オリンピック憲章の基本原則ぐらゐは知つておく必要があるのではないかと思う。スポーツマン、国民全員がこのよゝうなことを身につけて今後才四回アシア競技大会のよゝうなことが起らないよゝうに氣をつけよう。そこでオリンピック憲章の基本原則について簡単に述べておくことにしよう。

オリンピック基本原則

才一条、人種、宗教、政治の如何にかかわらず世界のアマチュアのみが参加する。

才二条、大会は一八九六年から起算して四年毎のオリンピックアードの才一年目に開く。

才三条、略す。

才四条、一国の選手は一国の旗の下においてのみ参加出来る。

才五条、大会の一切の権限はI・O・Cに在る。

才六条、略す。

以上のようなオリンピック憲章を頭に入れておく事が必要である。

詩

齊藤佳子

我行く道は遠けれど

はげみてみがけ技の道を

止りを知らぬ体操の技を

止るを知らぬ体操の

技量と技をみがきつつ

貧しきに学ぶわが道のため

わが輩は掌である

二年 平野 昌 宏

私は掌だ。生れながらにしてそうではないのだが古いマツトの様な顔をしている。時々かぎ形に破れ或いはカミソリで切られた如く鋭く両先が肉にくい込んである時もある。血がぼつぼつと小さく表面に浮き出ている時もある。そうした私を見て痛々しそうに、しかしニヤニヤしているのや、我身の如く身震いするのや、興味深く観察するものさまざまである。しかし多くの場合、何だお前の手まだ子供じやないか」と私の主人は浴せられる。よくよく見ると掌全体が赤味をおびている。まつたく幼児を赤ん坊と言つたものだ。私の主人は皆んなにさんざん言われた挙句発憤した。そこが主人の偉い所だろう。他の仲間の主人は嫌味を言われ墜落した。その仲間は言つたつけ、今迄相通じ合つてきた仲間から離れて行くの淋しい、

と。そんな事は最大の恥だと思ふ。よく聞く事だが男性が女性から「あんたつて弱虫ね！」と言れた事位に思ふ。だから主人もその様にならない様にいつも祈る。それを聞き入れたのか、この頃めつきり熱心になり、日増しにうまくなつて行くようだ。そしてついに喜びが訪れた。顔が変色し出したのだ。大部厚くなり、海が深ければ色が濃くなる如く又赤から青へ変る如く（赤ん坊より青年へ）進展した。その頃になると人間がクリムを使つて化粧するが私はメンタムを使つて化粧される様になつた。そして私の顔もちつとは売れたものになつた。後輩からは「すごい」の連発である。しかし一方では、特に美しい女性はグロテスクなものに時として嫌味を感じる様に、接する多くの場合にあつて悲観する事度々だ。この前もお菓子屋に行つた時、菓子袋の中に入れてある素晴らしく綺麗な手もその後示めた行動で一ぺんに弾かれた思いがした。買い物をして金を渡すと釣銭を受けようとした瞬間私の元からびくりとそれが離れてしまつた。そして金をザラザラ

と滑らせる様にして動作を終えたのだ。今迄の喜ぶべき成長も悲しくなる思いだ。同時に絶対にこの様な気性の女性を主人はいつの日か伴侶としない事を祈らずにはいられなかつた。その事は又次に起つた体験で更に強くした。

学園の祭典とも云うべき学園祭が今盛わで、その中であつて丁度始まるうとして居るフォークダンスのサークルの中に私は居た。やがて調子の良い音楽が流れ出し、私の主人は前にいる美しい女性に一礼し私を差出した。その女性もその様にしたが、しかし次の動作はまるで全ての人達と正反對の事をしたのだ私のグロテスクな姿を発見し、見詰めたまま、素早く手を彼女のうしろに隠してしまつた。そして一人で音楽に流れ去つてしまつたのだ。その時からであろうか、私の生活する場、接するものが一変して単調になつたのは、しかし私の顔と変らないマツト、硬い鉄棒等、私は生涯の友を得た思ひになつた。そして到々さんぜんと輝くトロフィーを手に抱く事が出来たのだ。今迄の体験が鳴り響く拍手の様に浮かんでくる。初め

て血の出る思いをして、ようやく皮が厚くなつた時は更に努力を払い又女性の掌からつばなされた時は尙も努力を払つたのかも知れない。なにか熱いものがこみ上げてきて、いつの間にか黄金に輝くトロフィーを雲が掛つた様に濁らしていた。

(青森の叢石)

O B 会員へ

O B 会費を十二月二十五日まで
に吉川晃氏へ一年間分として、
一〇〇〇円をお納め下さい。

現在のわが部

二年 真島孝礼

日大体操部の歴史はまだ浅く新しいが。現在の部員数七・八十名は他の学校とくらべてもまったく立派である。

現在の学生体操界では、教大、日体大、それに日本大学を加えてビッグスリーと呼ばれている。しかし老舗のノレンからして教大、日体大は優位にあるが、近い将来においてこのハンディを必ず打ち破るべく決心である。今年は特にその「チャンス」があつた、先輩もそろつていたし大変期待されたのだけれど僅差で出来なかつたのはまことに残念だつた。

しかし女子の方はインカレで教育大を破り二位になつたことは大変りつぱだと思ひます。

男子も今まで以上に一致団結して頑張る必要を感じています。

それには練習時にもつとお互いにライバル意識をもつてやれば自然とわれわれのレベルが上がりシンクスを破ることが実現すると思ひます。

今年の四年生は早田主将、菊地総務を中心に非常にまとまつて、ここまでわれわれがスムーズに來られたことをこのページを借りて感謝申し上げます。

われわれ二年生も今後は今まで以上にいろいろな面で張切るつもりです。

だが一つ不満なことがあります。それは今年われわれ二年生からマネジャーが選ばれなかつたこと、やはり一人でも出しておかないと四年生になつてから困ると思ふ。そんな訳で今年中に二年から一人選んでもらいたいと思ひます。(註鶴見君にお願いしてある。)最後に部員全員が一九となり今後のわれわれ体操部の向上を祈つてここにペンを置きます。

体操の面白さ

二年 鶴見 興人

体操を良く知らない者が体操について書くのは無理な話であるが、今迄に感じたことを書いて見ようと思う。

大体スポーツをやるのは楽しいものであるが、体操は少し違う様に思っていた。同じ事を何度くりかえしてもなかなか上手にならないし、練習を多くすれば全身が痛くなる一体これのどこが良いのだろうか？、体操を始めて一、二ヶ月こんな事を考えた。競技会を見てあのダイナミックな美しさに魅力を感じたのであるが実際こんなにつらいものとは思っていなかった。どんなスポーツでもつらい事があるのを百も承知していたのに体操部に入つた事を後悔したりした。

半年程たち何度やつても出来なかつた技を覚えたととき非常にうれしかつた。これが体操の面白さ

ではないだろうか？

スポーツをやる以上試合に勝つことを望むのはあたりまえであるが練習中にこうした面白さがあるスポーツはないのではないかと思う。しかしその面白さは自分で作り出さなければならぬ、一日で出来るもの、何十日何ヶ月も毎日汗を流し努力して出来たもの、途中けがなどによつて出来なかつたもの、など様々であるが、その期間が長ければ長い程技をマスターした時のうれしさは大きい。練習は、団体競技と違い器具と自分だけである。技を覚えられないといつて練習を休んでいたら何時迄たつてもマスターすることは出来ない。苦しいこと、つらい事をのり越え努力して得た面白さは体操をやつた人でなければ味わうことが出来ないだろう。どんな選手でも出来ない技は無数にあるのだからその面白さは限りない。一つでも多くの技をマスターしそれを美しく表現出来る様になるようと努力することは非常にやりがいのあるものである。体操は本当に魅力にあるスポーツだ。

学業とスポーツ

二年 坂本弘美

ある新聞で部生活と勉強についての記事を一読して、なる程だと感じたことと私の考えを述べた。まずその主旨は大学の運動部員は運動の練習が才一の目的とするか。それとも学生としての本分の勉強が目的であるか。ということである。現在皆運動部員全てが悩んでいる共通点を取りあげてあった。われわれが高校時代の時は誰れもが大学入試が控えているためか勉強が才一の目的で、良く勉強もし、良く練習をやったつもりです。しかし大学へ入れば後は就職の事だけなので、運動部員は練習を一生懸命行なつていさえすれば、就職は『どうにかなるだろう』という考えをもつて勉強をなぞりに行っている人もおる。

大学でも運動選手には特別扱いをしているようであるから、なお更運動選手は練習だけが人生だ

かのように思い、一に練習二に練習といったように毎日練習に励んでおる。学習に堪える健康、個人の精神・感情・肉体の向上発達という人間形成の為に精根を打ち込んで運動に励んでいるのはすばらしいことであるが、理性、知識、知能を高めなければ真の人間形成は出来ないのではないでしょう。この両者の利点を取り入れてからこそ、真の人間形成が出来有能な社会人となれるのではないでしようか。現在運動部員は社会から人間の教育が出来ていと言われていますがただ練習だけ行なつて人間教育が出来上つても社会の要求に對して恥じるべきと思います。幸い日本大学体操部は両者を育成しようと努力している。だから僕は勉強と運動を両立させながら、自分自身の人間教育をしていきたいと思つています。

希望

二年 山岸正夫

希望あつて人生あり、その人生あつて運命があり希望もあるだろう。運命的な存在である人間にとつて生きていくことは希望を持つていくことだろう。例えば自分の希望はPという女と結婚する。

あるいは自分はVという町に住むこと、自分の希望はPという地位を得ることである。等々。人はこのように語つていく。しかし何故それが希望であるのか。それは欲望というものでないのか。目的というものでないのか。あるいは期待というものでないのか。希望は欲望とも、目的とも、期待とも同じではないはずだ。“体操”というスポーツを行なう者にとつて、今一度！『希望』ということについて考えよう。希望なくして明日があるだろうか。希望があるから行動し、また、新しい希望を見い出す。しかし希望を持つことはやがて

失望することである。

だが、われわれの存在は希望によつて完成に達する。希望に生きる者はつねに若い。自分にとつてい出来ないと信じてかかること自体それは希望を失い、自分から出来ないようにする。けわしい丘に登るためには、最初はゆつくり歩くことが必要でしよう。希望ということについても一度に大きな希望を願うわけにはいきません。小さなものが重なり合つて大きな希望が生まれるのでしよう。そのためには堅実な努力により成功をおさめることです。僕達ヂムナスト、いやスポーツを行なう選手にとりこの“希望”ということは一生涯きまとうでしよう。もちろん“人間”として、切り離せられないものが、現の僕にはこの希望に支えられているといつていいだろう。部員諸君にこの希望ということとは、体操について重要かつなくてはならないものであることを今一度理解願いたいものです。

体操への愛着

二年 浅田 泰男

自分が体操を始めたのは高校二年の時だ。正確にいえば、高校一年の終り近い時に体操部へ入つたのである。何故体操を始めたか自分でもよく解らないけど高校に入學した時、自分が入りたかつた水泳部がなかつたし、他の運動部へ入ろうかどうしようかと迷っている内に高校一年も終り近くなつてしまつたからである。

たまたま体育の授業の時、マット運動をやらされた。小学校の頃運動会の時選らばれて組立体操やマット運動を少しやつたことがあるのである程度興味があつたし、体育の教師が教育大の体操部を出た先生だつたので、自分が思つていた体操という觀念より別なことを教えてくれ、その授業が面白かつたのである。

又僕達のクラスには体操部に入つているものが多くその友達に進められ自分でもなんとなくやつてみようかという気になり体操部に入つたわけである。もちろんそんな状態だつたので、まず初歩

の初歩から始め、体操というものに面白くなるのにかなり時間がかかつた。

入つた頃の体操部は部といつても名ばかりで、器具もまともにそろつてなく、組立鉄棒が一台と小マット三、四枚というお粗末なものだつた。だから放課後の練習も、毎日マットが主で、時々鉄棒を立て練習するくらいであつたが、前にのべた体育の教師が体操部の顧問だつたので熱心に指導してくれ、また、一年の終り頃平行棒、そして二年の夏には鞍馬吊輪と器具も備い、マットもロングなど新しいものがかなりふえ、どうやら体操部らしいかつこうがとれたのだつた。しかし今度は今まで見たこともさわつたこともないものばかりなので、その器械になれるまでが大変だつた。器械がそろつたその夏休み部才一回の合宿を学校で行ない、その器械とつくんだのである。両手の手のひらの皮はべろべろにむけ鉄棒に飛びつこうものならまるで手のひらが火事になつたように感じ、あわてて手を離してしまふ、するとコーチの先生にどなられ嫌や嫌やながらも又鉄棒にぶらさがるのであるが、こうなるともう技を覚えようなどの考えはなく、ただ必死に鉄棒にしがみついて

いるだけである。そのつらかつた合宿が終るところにはどうやら器械にも少しなれてきてだんだん体操というものに面白さが増して来た。規定もどうやら練習出来る段階になるともう夢中である。家に帰つても今日練習した種目を考え、そして明日なにを練習しようなどと考えるようになった。

そして技もいくつか覚え試合にも出られるようになる、自分でも不思議なくらい、毎日体操の練習に明け暮れていた。

こんにち大学の体操部に入りいままお体操を続けているが、まだまだ覚えることがいっぱいあり未熟な自分であるが、高校時代とは違った大学の体操部で自分がどのくらいやつていけるか、自分として大いに期待しているのである。

本当に今では体操をやつてよかつたと思つてい

終り

○お知らせ

新年の練習開始は、一月六日
正午からとし、終了後恒例のオ
シルコ会を体育館で開催いたし
ます。

当日各自おもちを二ノ三ヶづ
つお持ち寄り下さい。

× × × × × × × × × ×

ケルベツクの馬尾伸膝跳に思う

ヒンターヘイトが私の印象にのこつた最初はローマオリンピック大会におけるソ連のチトフ選手による演技である。この時は彼は優勝こそしなかつたが（註、小野選手が倒立転回跳びで優勝）、その空間姿勢、時間といい非常に間合いの秀れたものであつた。

今年のプラハの世界選手権でチエコのケルベツクがこの種目で優勝している。この時はHinter Hechtでかち得たのだつた。

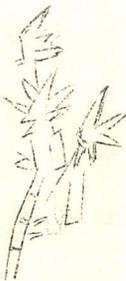
彼の金メダルの得た原因はなにか、彼がもしチトフ選手と同じ練習法でプラハにのぞんだと仮定すれば、恐らく彼は金メダルの榮与は得られなかつたらう。それは勿論彼自身の努力の賜ものであるが、研究心のあつかるどころ大

なるものがあるだらう。われわれが想像つかなかつたくらい、馬と踏切板とを離したという着眼点にある。私は彼の距離（約一八〇／二〇〇センチ）の地点に立つたとき、私は跳ぶことに恐怖をおぼえた。

私のここでいいたいことは、跳馬に限らず何か新しい変つたセンスで、種目を眺めてほしいということである。東京大会で勝つためには独創的に技を作らねばならない。

新技開拓こそ優勝への道であるといつても決して過言ではない。

（ 12・10 遠藤 ）



O B の近況

岩本忠喜

近頃体重が増え、とても体操の選手にはみえないだらう。レスラーとしてなら通用するかも知れない。僕の家は蔵前の国技館に近いからユカタでも着ていると関取にみえるかも知れない。

体操部誌ができると聞いてよろこんでいる。創設時の歴史を明確に後輩に知らせる上にも、また部内の意見の交換の場としてもいいね。自分の意見を活字にするということは、責任の感じ方がまるきり違う。今僕が、日本体操協会誌の編集を手伝っているが、文章を作るとは大変な仕事だ。現在の勤務先はミシン会社であるが、いずれ親のやつている会社の跡を継がねばならぬ。難かしいことは沢山あると思うが、うんと勉強して私はやりたいと思っている。

住所 台東区浅草北清島一〇三

電 八四一 五一七四

経済学部三五年卒業

O B の近況

吉川晃

銀座で生れ、銀座で育ち、そして銀座で働いている私は銀座をはなせない。銀座は私のふるさとでもあり、安住の地でもある。

銀座とは、江戸時代に銀貨幣の鑄造した場所であり、明治、大正、昭和と時代の変遷はあつても我が国の文化の中心であることには変りない。昔変しい銀座の柳・・・という唄もあるが、昔の銀座には柳の木が無数あつたが、今はほとんど取り払われてその面影はない、淋しいことだ。私は仕事の関係で車をもっているが、駐車場のないのがなやみの種だ。立体駐車場、地下駐車場と出来てきたが、まだまだ不足している。街づくりは日夜をとわず続けられている。私のオフィスや家の近くも変りつつある。銀座に出たら寄つて下さい。飯でも食べましょう。

会社 中央区銀座三ノ四 文祥堂 商学部三五

電 五三五 二三七一内線二〇 年度卒業

和

体育学科二年

梅崎也

「和」とは三省堂の国語辞典によると、「協力、調和」とある。

われわれは日大という集団と、体操部というもう一つの団体に自らの自由意志によつて入つた。

私の思うには日本大学という団体に入つた目的自体についてはその人によつて違つてゐるにしても、体操部という所に入つたということは、いまさら理由を申し述べなくても、ある一点においては共通な所があるに違いない。それを我々は早く再覚認せねばならない。好きか興味を持つたかである。いやいやながらとか、嫌いなことだけれどもなにかしななければならぬ。もしそういう人がいるとしたなら早く退部したが良いだろう。何故なら運動生活を、有意義に過そうとする人の迷惑となり得るからである。

運動生活を有意義に過すためには早く共通点を見出し、それを源として和を保つていかなければ

ならないと考える。和ということを考えない人と人がうまく結びつき、楽しい規則ある正しい生活を送るために重要なものであると信ずる和というものがうまくいかなかつた場合、新しい友をつくれぬばかりか真の友人もうしなう恐れが起るからである。われわれは今この時間というものは二度とこない。それを意義あるものとするには、和を大切にしこれを潤滑油としてスムウズに今の時間を使うことにある。運動生活においてこれが存在するということとは互いの練習効果を上昇させ、はげましとなり、人の力を知り己れの力をも見つけることができるという重要なものである。先輩後輩の和、学年同志の和、部全体の和、和に入ることによつて一段の人格成長を見るためにも互い自分の胸に聞いて、もしこの中の一つの和にでも取り残されていたら早く追いつかねばならない。苦しい事かも知れぬ。しかく早く追いつく事によつて楽しみが増える事を目指してがんばろう。しかしこの和には規則というものがある。守り得る事のできない者は何事も成し得ない。彼等は協力量、調和のある良きムードを知らない不幸な人でもある。訳の分らない事を述べたが簡単にいうなら、好きで入つた部であるからその部の発展を考

えるために、やはり好きで入った我々みんなが仲良く話しあい、助けあつて規則ある、どこにも負けない体操部としようという事である。

マットの並べ方

毎日の練習においてマットは欠くことの出来ない大切な存在である。

マットの並べ方は真直ぐにすることは、美的にも心理的にも大切なことだ。そして事故防止に万全を期したい。

最近並べ方にこの注意が少し足りないようにみられる。マットの合せ目、マットの運搬用の把手をマットの下に入れないで並べてあることが多い。みんな注意しよう。

準備

二年 小松 楯木

「練習始めます！」「お願いします！」この掛声と共に私達は走り出す、きちんと並べられた器具、真直に敷かれたマット、私は無意識の内に準備運動を行なつていた。しかし、静かである、時計は午後二時四十五分、後二、三分たてば一斉にマット運動に入り、やがては空中に飛び上る人々の姿を見ることが出来る。その時こそ私も、思い切つて空中に飛び上り、下界の一切のことを忘れてみたい、そのために今、私はマットに座りつつ足首を廻している。

体操の中に倅せが

一年 下手 真美子

若人よ 春が来る

土を破り貯えた力のかぎり伸びて行こう。

私が日本大学の体操部員として、練習を始めてから、もう七ヶ月になるうとしている。その七ヶ月の間に、毎日の練習、そして、又大きな試合等を通して、大学のクラブ生活にも、やつと慣れて来た私です。時々、慣れすぎて、自分の行動の良い悪いの区別がつかなくなつて、来る時があると思う。だが、その行動を反省するかしないかで、人間の値打が決るんじゃないかしら？もちろん、私は、常に自分のとつた行動を反省しているつもりだけど。。。。。

「本当？チャボ」「コラ、余分なことは、言わないの!!」「ふふふふ。。。。今の会話は私事ですから、皆様は気になさらないでネ」。

大学の生活にあこがれて入学した私ですが、まだまだ自分自身の行動に自信を持つて進むことができない。また自分の「幸福」というものが、どこにあるかも自分には、わからない。たゞ一つ、私の信念は、「幸福は自分で捜し求める物で、努力しないで、自分の物にすることはできないのだ」という一言である。

大学生活も、三年と五ヶ月という長い自分の自由な時間が残つている。その間にどうにかして私は私なりの「幸福」を掴みたいと思つている。いや絶対に掴まなくてはならないのだと私は思つている。現在の私には、体操に於て、「幸福」を作り出すのも不可能ではないと思う。私は、これからずつと体操を続けることによつて自分の「幸福」を掴もうとしているのかも知れない。いづれにしても今の私から体操を取つてしまえば、「幸福」というお城に続く一つの道を鎖されてしまう様なものである。そうすれば、私はきつと他の何物をもつて「幸福」を捜そうかと、迷いつゞけて大切な自分の一生の一部分を、台無しにしてしまうこと

でしよう。

自分の進むべき道をはつきり、心の中に決めておいて、前進して行かなくてはならない。

「幸福」幸福とは何であるか、私にはわからない、けどそのわからない「幸福」を捜し当るために、私達は、努力しなくてはならないのだ。早く自分の「幸福」をしつかりと掴もう。

お前は「幸」を掴むのだ

「幸」は、花園か荒野の中か誰もしつていない。

自分で、自分の小さな手で

しつかりと「幸福」を掴むのだ。

ちやほ詩集より

無題

一年 佐藤 優子

私が日本大学に入学して早や半年も過ぎ、今迄のことを振り返つて見ると高校生活とちがいが、まづ下宿の面で色々と今迄経験しなかつた事を経験した。これからの三年間半を有意義に過ごしたいと思う。

クラブについては私の高校時代とだいたい条件が似ている。たとえばメンバーが少ないこと、上級生がいないこと等である。

良い点は、男子と一緒になので張り合があると言ふことである。

女子はメンバーが少ないのでお互いに協力し誰一人と脱落しないように楽しくやつていきたいと望んでいる。

明日に望みを

一年 海谷 美代子

練習が終わつて、帰りの電車の中で、今日はバツ宇宙が良く浮いたなどと思い出すことのできる時は、最高に体操に志している者の楽しさというものを感じる。そんな時は、満員電車であつても少しもきついとは思わないし、下宿が遠いなどとも思わない。そして、明日の練習を今日と同じように想像して、楽しい期待がかけられる。毎日がこのような日の連続であつたら、私の口から憂うつという言葉は出ないでしょう。けれども、毎日毎日がこのようであるとは限らない。現にこれまでを振り返えつても、楽しくない日は少なくなかつた。

「今日の練習は何の収穫もなかつた。」私に収穫がなくても、Aさんはスワンが昨日より浮いた。Bさんはガンツが良かつた。これで、私は憂うつ

にならなくて良いのです。

今日の練習において望みがかなえられなくても、誰かがそれをかなえています。私は今日の望みをまた明日にかけ直して頑張ります。

数十名が体操部という一つの名をなして、一緒に練習にはげんで、毎日誰かが進歩の程を示しています。

大きさまさまの豆を一個のなべに入れて火にかけると、小さな豆は早く煮えますが、大きな豆だつて時間をかけて気長に煮れば、やがて柔かくなります。

友への便り

一年 吉川 公子

『さん、お手紙ありがとう。

大学生活にも慣れ、自動車クラブで頑張つておるとのこと、とてもうれしく思います。

私は、高校時代と少しも変わらず、体操をやつています。たゞ住んでいる場所が違っただけです。

高校時代、『さんは水泳、私は体操と種目こそ違つても目標は同じでしたね。いつも試合には、応援に来て下さりつぎの日はかならず手厳しい批評を下さるあなたを、口ではにくらしいと言つてもすごく感謝していました。

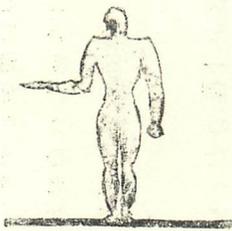
二人共々 インターハイへ出場出来ず、よし今度こそはと、国体を目ざして練習しましたが、また二人とも行けず、くやしがつたのももう一年も前の話ですね。大学も違い種目も違いますが、スポーツを通じて意見を言い会える友を持つたこと

は、勉強になります。

「ベストをつくして!!」とは、スポーツだけでなく、全てにおいて言えることですね。十一月には、ラリーがあるそうですが、頑張つて下さい。

よき成績お待ちします。私の方も十一月には、全日本選手権大会があります。

お互に頑張りましたよう。ではまた。



「羽田空港での見送り」

一年 宮川 本子

大学生活も半年がすぎ今までの私の周囲はいつも何らかの行事におおわれ、それらはプラスにもなりマイナスにもなった。

一日の生活がクラブのために時間を費いやされるのが少なくない。でもそれで私は不平をいおうとは思わない。今の私から体操をとつたら何が残るだろうか？最初は辛かった。というより、今までの高松の時と全く違った練習方法、これではたしてついていけるのかと思っていたが、辛さも先輩達の励みの言葉で現在にいたっている。先日出発した遠藤先生・早田さん・渋谷さんを見送るにあたって、選手一行の顔には希望の輝きと自然が、また見送る人々の顔にも誇りと期待が、この場面をみて最高のファイトがわいてくるのを禁じ得なかつた。特に今回の日・ソ対抗には新人が多

く連れていったことにあつたかも知れない。この感激の気持を忘れることなく一生懸命頑張りたいと考えています。

新 役 員

主 将	山中 勝男	経三
副 主 将	金子 洋平	文三
総 務	小栗 郁郎	文三
副 総 務	平野 昌宏	文二
	志賀 正昌	文三
	小松 武雄	文三
	鶴見 興人	文二
学連委員	磯部 忠通	文三
	一田 召三	経三
	貝増 隆司	商一
本部連絡	稲垣 泰治	経三
	古賀 和彦	商二

川流れて月流れず

一年 小笠原 光子

「ただいま！」今日一日の練習も終つて、我が家にとどりつく。練習中そんなに感じられなかつた疲れが二倍にもなつたような気持でそのまま部屋に帰になる。涼しさが身にしみて感じられる十月！もう秋なのだ！ふとラジオのスイツチをひねる。いつの間にか私はラジオのメロデーに引き込まれていたのだつた。

満々と水をたたえて流れる小川に月がくつきりとうかんでいる。そしてあたりは一面の田んぼ！その間に細く、長く幾通りもの道が続いている。稲穂を積んだ馬車が、ガランゴロンといさぎよい音をたてて夕月の田んぼ道を急ぐ。・・・私はサイン帳を片手に小川へ歩を運ぶのである。道ばたの草が夜つゆにぬれ、月の光でいつそう輝いている。川岸のコンクリートに腰をおろして水を見

つめる。川の水は今日も流れていた。昨日と変わらずに・・・そして又明日も流れる！だがその川の水に映っている月は流れない！

ふと我にかえつた。時計は七時をまわつていた。川の水は流れ、その水にうつる月は流れない。田舎にいた頃、私はよく考えたものだつた。

今この夢の中に私はかつての月の教えを見出したのである！大学生活に、そしてクラブ生活と言うものに慣れてきた私は、今日の今日までこの教えを忘れかけていたのである。"川流れて月流れず"

私達はそれぞれ、ある目標又は目的をもつてクラブに入っている。入部早々には他人がどうあつても、自分はこうして進むのだ！そして一路に！と心にちかう。ところが今になつてクラブ生活にもなれてくると目標どころか他人にさそわれるまゝに、つい行動してしまふのである。これは一人私だけであろうか。

自分の周囲がどうあろうと、又どのようになろうとも自分には自分の見いだした正しい道があ

るのである。"正しき道、自分の信ずる道を一路に、"月は教えたのである。そして"強い忍耐をもつて"と。いきおいよく流れる川に月は今日も映つてゐるだろう。しかし私達は"池に映る月"であつてはならないのです。たしかに池に映る月は美しい。だが人間は美しいだけではいけない。それは進歩も向上も見られない外見だけの美しさにすぎないのである。

東京の空の月は今夜も姿を見せなかつた。遠い田舎の思い出の川には今夜もあの澄んだ月がくつきりとうかんでゐることであろう。川の水は流れても、その川に映る月は流れないのである。今夜も、その次の夜も、又その次の夜も！

何んとなく家路にむかう我が足の

重きをぞ知る秋の夕ぐれ！

夕やけを遠く近くに飛ぶ鳥は

何を求めむ小さき胸に！

新人からの脱皮

藤田 一

日大入学、そしてただ夢中でやつた。余りにも忙しかつた。春の合宿、新人戦、夏の合宿インカレと新人である私には余りにも試合に追われすぎ「自分の練習」が出来なかつた。出来れば一、二年間は基礎体力作りといろいろの技の習得（マスタ―）に専念したかつた。しかし体操をやるかぎりレギュラーとして試合に出ることが一つの希望でもあつた私はその点、新人の時から試合に出していただいて恵まれてゐるかもしれない。こんな時高校時代の体操の恩師の云つたことを思い出す。「君達の体は自分の体ではない」。この言葉を思ひだすたびに自分が今まで体操部のために余りにも尽していない。そして自分のことばかり、自分の良いことばかり考えていたことに気がつく。こう見ると新人時代は思い残すことばかり、しかし

未熟ではあつたが試合には出た。それだけでも何かを得たはずである。新人審査会、これを機会に「新人」という言葉から気持も又技も脱皮しなければと心機一転している。これからどのようになるかも私にはわからないが、私はあるがこれの日大体操部員になつた。そして立派な先輩もいる。上級生も皆な立派な人格者である。良い設備もある。不足はない。これからの大学生活中、日大体操部のため、そして私は私なりに自分の長所を生かし、短所を研究し、努力と忍耐をモットーにすこしずつでいいから、しつかりと進んで行きたいと思ひます。

これからだ

一年 砂野泰男

三月十五日、故郷紀州の田辺の山河に別れを告げて上京しその日から練習に参加した。その日の才一印象として強く残つてゐることは、練習はきつといふことと皆んなが上手であるといふことであつた。僕は一生懸命に練習した、くる日もくる日も休みなくやつた。しかし一向に上達した様子はみられなかつた。

春の合宿は忙しい合宿であつたが無事終り、入学式も済み、一段と練習に活気が感じられた。

四月二十二日に新人戦の選考会があり、十名の選手の中に数えられたことは大変な感激であつた。新人戦は普段の実力のなさから成績が悪く散散であつた。申訳ない。

水泳実習、自分としては新人戦終了に大いに

気合を入れ、調子を上げておつた時だつただけにこの水泳実習は痛かつた。早朝、ザリヤーツカ、補強等をやつておつたが帰京後器械に触つてもなにも出来なかつたのに驚ろいた。

夏の合宿、ここで僕が「山谷」というニツクネームがつけられた。薄きたないスタイルをして居つたのでサンヤスタイルという流行を作つた。夏休みに入り、夏季合宿を青森で行なうことを知り、僕はこんどこそはその決心に燃えトレーニングに励んだ。合宿でも人一倍練習し力もだいぶつき、これならば国体予選に郷里からでられると思つて居つたにもかゝらず、帰つたとたん集団中毒にかゝり、無理をして国体予選に出場し肩を痛めてしまつた。泣きつらに蜂とはこのことかと自分自身悔んだ。先日トランプリンでガントツの練習をして足首を捻挫してしまつた。調子がかゝつてくるとどこかしら怪我をし成長をさまたげる。まだまだ力が不足なんだ、今後とも怪我をしないようにし大いに頑張りたい。

雑感

一年 江川 征四郎

入部してから早くも一年を過ぎようとしている現在、自分の事で気のついたことを述べてみよう。それは「慣れると言うことは本当に恐いことだ」と思つた。それが証拠に入部当時の事を考えてみよう。上級生に用事を言われてもその事がむしろ光栄の様に感じて返事もすぐに「ハイ」と、又掃除においても、マツトを運ぶにもあの頃は上級生に対しての返事もすこぶる力が入つており、少なくとも新鮮味があつたと思う。それが月日が経つにつれて、どうだろう。返事はもとより、態度も変つていた。種目を移る場合にも入部当時は挨拶も丁寧をやつていたのが慣れてくるに従つて頭の下げ具合もだんだん高くなり声も小さくなつていた。これは上級生に慣れて来ているので何か上級生と親友同志の様な気持になつてしまふのであつ

て自分では丁寧に挨拶している積りでも心の底には「上級生とは親友同志の關係にあるんだ」と言う気持ちが残っているののでつい挨拶も形式的なものになると思う。それ故に練習時に於ては個人個人自己を中心に励めば良いと思う。これは別に誰とも話をしないということじゃなくて、上級生、下級生を問わずいつも入部当時のように新鮮な気持ちで練習すれば良いと思う。



私の願ひ

一年 船越龍雄

私が体操部に入つたのはこの四月で、早くも半年の幾月が過ぎ去つてしまつた。ところでこの半年を振り返りかえつて見ると高等学校時代とはぜんぜん違つた環境なので始めはなかなか部の生活になじめなかつたせいであるうか自分が思つていたところの半分も満足に出来なかつた。しかしこのころではだいたい部の生活にも馴れて来たのでこれからは少しずつ自分の調子を考えた上で練習をしたと思つております。話は変わりますが、今私が練習で一番問題になるのは練習日のことです。それは今日までいつも水曜日ばかりが自由練習の日になつていますが私は家が遠いせいか日曜日と言うとどうも億劫になりがちな時が多いものですから自然と練習にも身が入らなくなりがちになる。それと言うのも普段朝が早いのでたまの日曜日には

ゆつくりと寝ていたいと思うからです。ですの時には日曜日などを自由練習の日にしてくれれば練習にもおのずから身が入るのではないかと思つております。

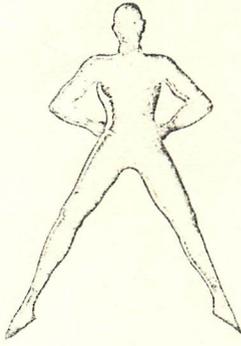


体操への愛着

一年 岩 沢 稔

四月日大体操部へ新人として入部していろいろ七ヶ月の短かい期間を振り返つてみると楽しかつたと、苦しかつたことがかぞえきれないほどあつた。今ペンをとつて考えていると、苦しかつたことも、くやしかつたこともみな楽しい思い出と変わつてゐる。僕は高校時代から大学生とともに練習してきたから高校時代とあまり変わつた気持は持たなかつた。しかし全然ちがわないとはいえない。それは大人としての考えをもつて練習するという事が心の底に根をおろしたからである。高校時代は遊びだけは一人前以上であつた。入部当時はみなさんにはわからないほどの苦しみもあつたがそれも今となつてはだいた消化され、友達も僕の体操への関心をよく理解してくれ最近では誘わなくなつた。

体操を何度やめようとしたか分らない。そのた
びに考え現在ではもう考えないことにしている。
今、僕の生活から体操を除いたらなにものこらな
い。体操が僕の生きがいである。体操をやつてい
る時は何も忘れることが出来るから。



体操競技と社会生活

一年 貝 増 隆 司

僕は体操をはじめから四年近くもなるが、こ
れまで一度も体操をやつていないことに後悔を感じ
たことはない。むしろやつて良かったと思う方が
多い。しかし何度か体操をやめようと思つたこと
は少なくはない。なぜ上手でない僕が長く体操を
やつているかというそれは社会生活の根底をな
す礼儀をこの体操から学べるからだ。よく人から
言れることであるが、「君は良く挨拶をする」と
か目上の人には丁寧な言葉を使うといつて誉めら
れるが結局これは体操生活の中から見出されるも
のである。そこで一つ言えることであるが、現在
日大の体操部で使用されている「コンニチワ」と
いう言葉であるが、これを「コンチワ」と「ニ」
を抜かしたり「チワ」と言っているこれではま
るで、八百屋の得意回りのようでなんとも気分が

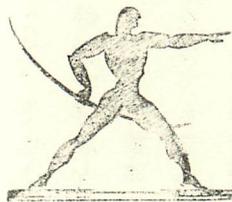
体操部によせる雑感

一年 増田 国利

悪い。そこでなんとか日大体操部だけのすばらしい言葉、挨拶の仕方はないものであろうか。先生や知人に会つても自然このような言葉が出るのは聞く人にとつていやであると思う。体操が社会生活に通じているといったが、それは他にも言えることである。たとえば練習中怪我をしたとすると、これから立ち直っていくことは普通の生活においてもどのような境遇に会つても立ち直ることが出来る人であるといつてもいい過ぎではないと思う。だから僕はどんなことがあつても四年間体操を捨てず続けていきたい。別なことであるが部の雰囲気にもう少し親密性を増してもいいと思う。またこのような機会を持つことも必要であると思う。

六月初め入部し、まず感じたことは、高校時代の想像に反して、民主的であり、皆が教えあい、また聞きあつて自主的に個人個人の向上に努力していることであつた。このことは自分を大変喜ばせた。しかし大学に入つて初めた体操だつただけに希望は大きかつたが、何をどうしていいのか全く見当がつかかなかつた。少しわかりかけてくるとそのむづかしさも、何倍かの大きさで自分につたわつてきた。しかし未完成ながらも一つの技が何回も何回も失敗して体によつて理解出来たときは、何物にもかえがたい喜びであつた。それにより次の技に対する希望もわいてきた。しかし一たび他の部員をふり返つて見、自分とまるで天地の差のあるのを見る時、谷底へたたき落とされたような気持になることもあつたがその差のある

のが当り前でなかつたらむしろ不思議であると思
う時、今後は自分の出来る範圍努力し、少しでも
皆においつきたいと思つてゐる。



体操部と寮生活

朝比奈 喬

体操部に入部して早くも六ヶ月にもなり、よ
やく体操部の雰囲気、練習にもなれてきた今日此
頃、自分としてもやる気が起きて来ました。大学
でのクラブ生活は高校の時と相当に違うことにま
ずビツクリしました。先輩に対しての礼、大勢の
部員、器具設備が大変良くとのつてゐること等
々、私自身このような雰囲気の中で練習出来る
ということとは本当に幸だと思つていますがなにかし
らこのクラブ生活に疑問を持つてゐます。それは
先輩諸兄が後輩に対して積極的に指導してくれぬ
ということでは。ということは何かしら自己本位
の練習になつてゐるのではないだろうかと思
います。出来るなら積極的に指導してくれること
を望んでおります。また私が今生活してゐる所は
北海寮という寮生百十余人もゐる大所帯です。

所がここに一つの問題があります。というのは体操部も一つの団体生活であり、私の住んでいる寮も団体生活なのです。部には部の規則があり、寮には寮の規則がありますが、私として一番困まるのは、この両方の規則が応々にしてぶつかるということです。たとえば寮の夕食は七時半迄で、練習が終るのが五時半迄で後かたづけや掃除などで体育館を出るのが六時過ぎになり寮につくのは七時半ぎりぎりです。夕食の食べられない時もありました。また寮では、春と秋に寮の体育大会が行なわれ寮生全員参加しなければなりません。という事は練習を休むという事になつてしまいます。以上のような訳で練習を休む事がありますが、その点は体操部の先輩諸兄の暖かいご配慮をお願いいたします。

練習について

一年 吉川 隆 三

私としては、今まで余り練習にも参加せず練習などについて述べるだけの価値はありませんが、今までに参加して思ったことを述べたいと思う。まず最初に時間をかけて練習するという事は良いのですが、それが、余りにも今までの状態から見ると、少し長すぎるのではないかと思う。部員が多いゆえ、なおさらこの練習の時間については考慮する余値があると思う。「例えばグループを作つて、機械へ移動をするとか」、一例を上げて見ればこんな方法もあると思う。そしてより能率的よち有効に練習しようではありませんか。

また話は変わりますが、先輩達が、経験して得た技を私たち未熟なる部員に説明書などを書いて発行されることを希望しております。その説明書ですが、「例えば、平行棒の飛び出し宙返りは、最

初は・・・方法から練習し、・・・の方法を至て技を取得したとか、このような要領です。そして私たちはそれを手本として参考として、次から次へと技を取得して行きたいと思つております。虫が良い話かもしれませんが、私たち未熟者にとつては、ほんのちよつとしたヒントが必要な重要な時期だと思つては、虫の良い事かも知れませんが、何卒よろしく御願ひ致します。また私自身も気分を新たにし、今後は、日夜体操に励むと共に皆様の良き指導を御願ひ致します。

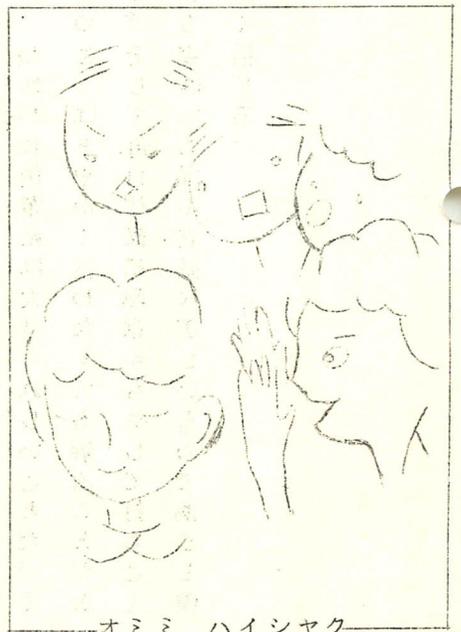
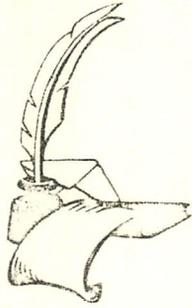
新人

一年 内藤 敏夫

僕は大学へ入つてから体操を始めましたので、部生活のありかたということについてあまり良くわかりませんが、体操部へ入つて感じたことは、初めて練習に出た時に、みんなのやつていることがすごがつたので驚きました。つぎに気がついたことは、上級生と下級生との間がうまくいつている様に思われました。それから一番にこまつたことは、上級生の学年区別が出来なかつたことです。練習の方法について感じたことは、初めての経験であつた関係もあり、マット運動一つをとつてもみんながうまく出来て、僕が出来ないので、どうも僕がやつていると邪魔にならないかと思つて気が引けてあまり練習をやる事ができません。マットを三本も使用するんだから、うまく出来る人と、そうでない人とが別々のマットで練習する

様に分けてあつたらナーと思う時があります。
他の種目についてこまつたことは、一つの種目へ
大勢がからあつてしまつて、うまく練習が出来な
かつたことです。

半年もすぎ、もまれもまれて少しづつ技をおぼ
えてきました。とにかく最近僕は僕なりに体操
がおもしろく感じています。



一年 石田 礼三

大学の体操部に入つて最初に感じたことは部員
が大勢おることであつた。大勢で練習をしている
せいか一日休んでも目立ない。無断で休むことは
悪いことだが、そういう点では気楽な面もある。
従つて真面目に練習をやっている人と、サボつて
いる人とは、一年間に実力の差が相当違つてく
ると思う。僕は入部した当時は大変に辛らかつた
高校と大学との差が相当あることを感じた。しか
し夏休みの前項からだんだんと慣れて余り辛らい
とは思わなくなつたが、少し気をゆるめると非常

にこたえる。強い体力と意志を作り一日も早く立派な選手になりたいと思います。



一年 大島 勇

最初日大体操部に入つて感じたことは、自分より皆うまいので、やるのがはずかしかつたが、練習してなれだしてからは、劣等感もなくなり練習自体は一生懸命できるようになった。しかし坊頭にしたり、服装礼儀などを必要以上にきびしい。それも大切であるが、もつと練習自体に重点をおいた方がよいと思う。練習に対してきびしくするのは、われわれ後輩には大変うれしいことだ。その他のことはとやかく言わなくても解ることだと思ふ。そして毎日体操に熱意をもやして打ちこんでいる姿はいちばん立派な美しいものであると僕は固く信じる。

注 意

永 見 忠雄

練習方法について書いてみたい。それは、先輩自身後輩に手とり足とり、親切に、くわしく教ええてもらうことを望んでいます。

自分自身何も出来ないのでも上手な人たちの僻みかもわかりませんが、気だけあせて何も出来ないのです。この所よりやく少しづつ覚えて来ましたが何んかたよりないので、こういうときに正確に教えてもらえば練習にも張がでるのではないでしょう。僕らもその種目がある程度まで出来るようになれば先輩たちに色々な所を注意してもらつてなおしてゆきたいと思えます。

それからもう一つは練習が終つてから、いろいろ注意があるがもう少し真自目に話をして欲しい。

挨拶

桐 山 幸 生

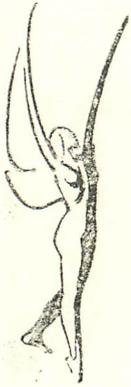
昭和三十七年四月私は体操部に入ったそして最初に感じたことは一年生は皆坊頭だったと言うことだ。私も入部の翌日坊頭刈にした。自分の頭を鏡で見た時につくづくなさけなく思った。つきに感じたことは先輩に対する挨拶のことだ。二年生は一年生に先輩に合つたらとにかく大きな声で「今日は」と言えと言つた。そして一年生は二年生の言われた通り、最初は少しはづかしいようないてれくさいようだった。がとにかく大きな声で「今日は」と言つた。けれども中には少数であるけれども大きな声で挨拶をしても解つたか解らないのか全然気がつかないで知らん顔をしている人もある。

礼儀

早いものである。練習がきついので、礼儀がどうのと言っている内にも、すでに一年の半分は過ぎ去っていたのである。大学の体操部とは如何なるものか、大体、解つて来た。上級生とも気軽に話せる様になつて来たし、体操部に入つて良かったと思う。それにしても自分が思うことは、「その日の練習終了后における上級生の注意はもつと親切な、的を得たものにしてもらいたいと思う。

オニロッカーのカギについて

一年生は、オニロッカーのカギ探がして大変悩まされる。大体一年生はオニロッカーは使用していないのだから二年・三年・四年が責任をもつべきである。カギの置き場所も決めていたのにそこに置かないで勝手に置いていつも一年生に探がさせている。少し考えて下さい。



全日本学生体操選手権大会

才11回(昭和32年8月東京都体育館)

○団体総合 二部

優勝	天理大	438.25
2位	日大	421.05
3位	群馬大	416.20
4位	新潟大	415.00
5位	大阪学大	404.15
6位	東京学大	402.35

個人総合

3位 平川文雄

初参加

一部昇格

一部昇格

才12回(昭和33年8月大阪府立体育館)

男子 一部

優勝	教大	461.35
2位	日体大	459.20
3位	日大	440.90
4位	天理大	434.15
5位	同志社大	431.15
6位	早稲田大	424.05

才13回(昭和34年8月秋田山王スポーツセンター)

男子 一部

優勝	教大	457.35
2位	日体大	457.20
3位	日大	444.70
4位	慶応大	426.95
5位	早稲田大	422.30
6位	明治大	421.25

女子

優勝	日体大	293.321
2位	教大	289.124
3位	日大	271.724
4位	東京女子体育短大	271.388
5位	天理大	251.455

女子参加

才14回(昭和35年東京都体育館)

男子

優勝	教大	457.40
2位	日体大	452.55
3位	日大	450.30
4位	早稲田大	432.80
5位	天理大	432.50
6位	明治大	430.45

男子個人総合

6位 健一(日大) 112.95

女子

優勝	教大	289.758
2位	日体大	288.055
3位	日大	272.287
4位	天理大	270.488
5位	東京女子体育短大	262.691

才15回(昭和36年8月津山商業高校体育館) 才16回(昭和37年8月札幌スポーツセンター)

男子

優勝	教大	45.5.45
2位	日体大	45.0.55
3位	日大	44.7.55
4位	早稲田大	43.6.20
5位	慶応大	43.1.90
6位	順天堂大	43.0.90

女子

優勝	日体大	28.7.12.4
2位	教大	28.2.28.9
3位	日大	26.6.4.23
4位	天理大	26.4.4.22
5位	東京女子体育短大	25.8.2.57

男子

優勝	教大	56.7.7.0
2位	日体大	56.7.2.0
3位	日大	56.5.0.0
4位	早稲田大	55.4.4.5
5位	中京大	55.2.4.0
6位	順天堂大	54.1.7.5

男子個人総合

優勝	早田卓次(日大)	115.3.5
----	----------	---------

女子

優勝	日体大	36.9.8.8.8
2位	日大	36.7.0.5.0
3位	教大	36.0.5.1.9
4位	国士館大	35.5.2.8.4
5位	天理大	34.7.0.2.2
6位	中京大	34.6.9.8.8

女子個人総合

優勝	渋谷多喜(日大)	75.2.3.0
----	----------	----------

以上の記録は全日本学生体操連盟の記録を抜書きしたものであるが、この記録が示すように日本大学体操部の進歩は目覚ましいものがあり、後援、朝日新聞社の記者が「現在の一部校とは、教大、日体大、日大の三校だけよい。」とさえいわれています。三ツ巴に入り乱れて戦い、今後ますますライバルとして斯道発展のため頑張りたい。

(編集子)

関東学生体操選手権大会

才1回(昭和34年6月台東体育館)

男子				
優勝	日	体	大	2 2 8.2 5
2位	日		大	2 2 4.5 5
3位	教		大	2 2 4.1 0
4位	明	治	大	2 1 8.1 5
5位	早	稲	大	2 1 4.0 0
6位	慶	応	大	2 1 1.5 0

男子個人総合				
2位	辻	健一(日大)		5 6.7 0

女子				
優勝	日	体	大	1 4 4.3 6 2
2位	教		大	1 3 8.5 2 7
3位	日		大	1 3 6.7 9 6
4位	東京女子体育			1 3 4.5 9 4
	短期	大		
5位	東京学芸大			1 0 7.5 2 9
女子個人総合				
6位	福田	竹子(日大)		3 4.5 9 9

才2回(昭和35年6月台東体育館)

男子					
優勝	日		大	2 2 6.4 0	
優勝	教		大	2 2 6.4 0	
3位	日	体	大	2 2 5.5 0	
4位	明	治	大	2 1 8.3 5	
5位	慶	応	大	2 1 4.4 0	
6位	国	士	館	大	2 1 0.9 0

男子個人総合				
優勝	辻	健一(日大)		5 7.6 5
4位	平川	政雄(日大)		5 6.3 5
6位	藤谷	弘一(日大)		5 6.2 5

女子				
優勝	日	体	大	1 4 3.5 2 7
2位	日		大	1 3 9.1 9 5
3位	教		大	1 3 8.8 9 6
4位	東京女子体育	短期	大	1 3 4.3 2 7
5位	日本女子体育	短期	大	1 0 8.0 9 5
女子個人総合				
4位	福田	竹子(日大)		3 5.5 6 6

才3回(昭和36年6月川崎体育館)

男子					
優勝	教		大	2 2 5.7 5	
2位	日		大	2 2 2.5 5	
3位	日	体	大	2 2 1.8 5	
4位	国	士	館	大	2 1 3.1 5
5位	早		大	2 1 2.7 5	
6位	明	治	大	2 1 0.2 5	

個人				
3位	高田	信興(日大)		5 6.1 0

女子					
優勝	日	体	大	1 4 7.6 9 5	
2位	教		大	1 4 3.1 2 8	
3位	東	女	短	大	1 3 9.5 6 3
4位	日		大	1 3 5.8 6 2	
5位	国	士	館	大	1 3 4.2 9 8
6位	日	女	短	大	1 3 3.5 2 8

才4回(昭和37年6月千葉体育館)

男子

優勝	教大	2.80.05
2位	日体大	2.79.45
3位	日大	2.77.05
4位	早稲田大	2.72.70
5位	順天大	2.64.80
6位	国士館大	2.63.30

個人

優勝	早田卓次(日大)	5.7.15
----	----------	--------

女子

優勝	日体大	17.5.8.6.2
2位	教大	17.5.6.9.5
3位	日大	17.4.5.2.8
4位	国士館大	17.3.1.2.7
5位	東女体大	17.0.2.9.3
6位	日女体短大	16.4.1.6.2

個人

3位	吉井公恵	3.5.2.6.5
----	------	-----------

Gon With Your Way

地上には大小様々の道がある

一人で行くことも二人で行くことも

三人で行くことも

馬車で行くことも出来る

だが最後の一步は自分一人で

歩かねばならない

M · S

徒手	Boden	ボデーデン
倒立	Hand Stant	ハント シュタント
バランス	Stant Waage	シュタント ヴァーゲ
上水平	Stütz Waage	シュトツツ ヴァーゲ
前方廻転	Roll Vor Wärt	ロール フォール ベエルツ
後方廻転	Rolle rück Wärt	ロール リユツケ ベエルツ
前方転回	Überschlag Von Wärt	ユーマシユラーク フォール ベルツ
後方転回	Überschlag rück wärt	ユーマシユラーク リユツケ ベルツ
側方転回	Überschlag Seit Wärt	ユーマシユラーク ザイト ベルツ
バツク宙	Salto	ザルト
側宙	Salto seit wärt	ザルト ザイト ベルツ

鞍馬	Pauschen Pfend	パウシェン プヘルト
両脚旋廻	Kreisem	クライゼン
フロンセアー	Schen oin	シエール アイン
バックセアー	Schen aus	シエール アウス
リヤボルト	Kreis kehre	クライス ケーレ
伏臥旋廻	QVen stutzkehre	クベール シュトツツケーレ
旋回下り	Außen kehre	アウス ケーレ
平行棒	Barren	バーレン
ツイスト	Stütz kehre	シュトツツケーレ
棒上宙返り	Lufh Rolle	リユフト ロレ
棒下宙返り	上から Felg überschlag	フェルク ユーマシユラーク
	下から Felg aufschwung	フェルク アウフシュワング

とび出し宙返り	Salto vor wärts zun Nieder sprung ザルト フォル ベルト ツン ニーダー シュプリング
前方振上り	Schwung Stemme ver wärts シュヴァング シュテムメ フォル ベルト
後方振上り	Schwung Stemme rück wärts シュヴァング シュテムメ リュツヂ ベルト
鉄 棒	Rech リツケ
とびこし	Riesenkehre (üben kehre)リーゼンケーレ(ユーバーケーレ)
大逆手車輪	Eu-Riesenferge オイ・リーゼンフェルゲ
選手車輪	Kam Riesemferge カム リーゼンフェルゲ
順手車輪	Rist-Riesenferge リスト リーゼンフェルゲ
開脚下り	Grätsche グレーチエ
伸膝下り	Hecht ヘツヒト
体前屈下り	Bücke ビュッケ
宙返り下り	Überschlag rück wärts ユーバーシュラック リュツヂ ベルト
蹴 上 り	Kippe キツペ
背面蹴上り	Kippe rück lings キツペ リュツヂ リングス
吊 環	Ringe リンゲ
背面水平	Hang waage rück lings ハング バーゲ リュツヂ リングス
正面水平	Hang waage vor lings ハング バーゲ フォル リング
十字懸垂	Seit stütz ザイト ハルト シュトツツ
翻転倒立	Felg aüf schwüing フェルク アウフ シュビュング
振 上 り	Schwüing stemme シュビュング シュテムメ
跳 馬	Sprüng シュプリング
伸膝跳	Hecht ヘツヒト
体前屈跳	Bücke ビュッケ

前方転回跳 Überschlag ユーバジユラーグ

倒 転 跳 Überschlag seit warts (Rad)
ユーバジユラーグ ザイト ベルツ (ラート)

註、次回はフランス語で掲載いたします。

編集後記

私達部員の共同の発言の場として、編集委員一同は皆様の御期待にそえるべく努力しましたが、はじめの試みであるので、はたして皆様の意に満ちたものができたかどうか疑問であります。この点については深くお詫び申し上げます。

私達体操部の歴史はこの部誌と共に歩ゆむこととなる訳で、皆様の建設的な御意見や楽しかったことなどを書いた原稿をお待ちしています。この部誌は年二回の予定で発行したいと考えています。今後益々立派に育つて、多数の方方に御愛読いただき日本大学体操部の発展を祈りたい。

昭和三十七年十一月三日

編集長

小松 武雄

委員

小坂 登

波多野 伸

田中 寿男

中島 元

卒業論文のテーマ

- | | |
|---------------------------|------|
| 平行棒におけるツエストの練習過程 | 早田卓次 |
| 跳箱運動における安全教育について | 菊地君男 |
| 補強運動と器械体操について | 田野哲 |
| 平行棒運動の跳出し宙返りとその指導法について | 建部盛藏 |
| 機械体操のトレーニングについて | 佐藤誠 |
| マット運動の安全教育 | 大場穰 |
| ウエート・トレーニングの研究 | 上野剛 |
| 前方宙返りの考察と指導法 | 藤田幸男 |
| 体操競技が女子の身体に及ぼす影響 | 渋谷多喜 |
| 日本の新聞の保健衛生に関する記事についての調査研究 | 吉井公恵 |
| スポーツ傷害について | 綿田房子 |
| わが国における戦後の学生体操競技の発展過程について | 寺島安世 |

